

**「幸福度の定量化に関する調査研究」  
報告書**

**2013年3月**

**公益財団法人東北活性化研究センター**



## はじめに

---

これまでのようにGDPに代表される経済指標のみで人々の幸福を測ることの限界が指摘されるなか、国民の幸福度や満足度を測る「幸福度指標」の必要性が認識されるようになってきました。

そして、国民総幸福量GNH（Gross National Happiness、2005年）を政策目標に掲げたブータンをはじめ、内閣府による「幸福度に関する研究会」や東京都荒川区のGAH（Gross Arakawa Happiness：荒川区民総幸福度）など、国内外において幸福度指標化について検討する動きが高まっています。

一方、東北地域は、GDP指標では他の圏域と比較して低位（5位/7圏域）にあるものの、「東北の豊かさ調査」（1999年 旧東北開発研究センター実施）によれば、東北の住民は「心の豊かさ、ゆとりのある暮らし、自然とのふれあい、近隣との人間関係」に暮らしの豊かさを描き、多くの人々が「暮らしやすい地域」とであると評価しています。

また、東日本大震災により、太平洋沿岸地域を中心に甚大な被害に遭った東北地域は、各々の地域で人々の営みとともに蓄積されてきた自然景観や人々の生活文化、産業など、多くの物が奪い去られた状況から、復興に向け着実に歩みを続けています。

このような厳しい状況下は、一方でこれからの自立的かつ創造的な復興、将来展望に向けた東北地域の姿をあらためてデザインし直す格好の機会といえます。

本調査研究は、東日本大震災を経験した東北地域の暮らしの豊かさを見つめ直し、東北地域の幸福度を評価するための指標を明示することを目的に、平成23年度から2カ年で実施したものです。

調査研究の1年目は、幸福度の概念整理など基礎的な部分について理解を深めるとともに、着目すべき視点や項目、指標などについてヒントを得る機会とし、2年目は、特定の自治体をモデルケースとした政策評価ツールとしての「幸福度指標化」の検証に主眼を置きました。

報告書では、福島県会津美里町における「幸福度指標化」を検討し、政策評価ツールとしての活用可能性を検証しました。具体的には、幸福感をはじめとする主観的指標について町民へのアンケート実施により検証するとともに、主観的指標とそれを補完する客観的指標を統合した指標体系案を提示しました。

調査研究にあたっては、アドバイザー（吉野英岐氏、佐藤英仁氏）及び会津美里町で構成する共同研究会を通じて議論を重ねてきました。貴重なご意見、ご助力を賜りました関係各位に厚く御礼申し上げます。併せて、アンケートにご協力いただきました会津美里町の皆様に感謝申し上げます。

本報告書が、会津美里町の今後の行政運営、ならびに政策評価ツールとしての「幸福度指標化」を検討しているその他自治体への一助となれば幸いです。

2013年3月



# 目 次

---

## 報告書の骨子

### 第1章 調査研究の目的

1. 調査研究の背景 ..... 1
2. 調査研究1年目の内容 ..... 1
3. 政策評価ツールとしての幸福度指標化の検証 ..... 2
4. 実施経過 ..... 3

### 第2章 主観的指標のアンケートによる検証

1. 主観的指標の選定とアンケートの設計 ..... 5
2. アンケートの実施 ..... 8
3. アンケート結果の総括 ..... 9
  - (1) アンケート結果の検証
  - (2) アンケート結果をもとにした政策評価の試み
4. アンケート結果の分析内容 ..... 15
  - (1) 単純集計の内容
  - (2) クロス集計の内容
  - (3) 回帰分析の内容
  - (4) 自由回答の内容
  - (5) 参考～平均点の差からみた幸福感との関係について

### 第3章 指標体系案の提示

1. 客観的指標の選定 ..... 33
2. 指標体系案の提示 ..... 33

### 第4章 政策評価ツールとして活用する場合の課題

1. 主観的指標について ..... 41
  - (1) 継続的な実施
  - (2) 一定数を同一とした標本設計
2. 客観的指標について ..... 41
  - (1) 恒常的な見直し
  - (2) データの推移や平均値で評価
  - (3) 割合（比率）に加工
  - (4) フロー指標とストック指標の視点を考慮

補足～東北における幸福な暮らしの姿とは ..... 43

## 参考資料

- ・ 会津美里町の共同研究への参画目的
- ・ アンケート調査票
- ・ アンケート結果の分析内容（属性について）
- ・ アンケートの集計結果（実数表）
- ・ アンケート集計結果（グラフ）

調査研究の方法

◎政策評価ツールとしての幸福度指標化の検証

1年目に示した「幸福度体系案」をもとに、会津美里町をモデルケースとした幸福度指標化を検討し、政策評価ツールとしての活用可能性を検証。

【幸福度体系案】

- ・包括項目：主観的幸福度（包括的幸福度）
  - ・個別項目：経済、健康、教育、環境、安全・安心、コミュニティ・関係性、ガバナンス、文化
- 流れは以下のとおり。

■主観的指標のアンケートによる検証：アンケートの分析から、包括的な幸福感とそれに影響する要素（幸福度体系案の個別項目）との関係の有無を検証。

■客観的指標の選定：主観的指標を補完するものとして、既存統計から分野ごとに主要な指標を抽出・選定。

■両者を統合した指標体系案の提示。

■政策評価ツールとして活用する場合の課題の整理。

指標の選定とアンケートの結果

◎主観的指標のアンケートによる検証

■主観的指標の選定

・「幸福度体系案」と町の第2次総合計画の体系をベースに選定。（町の生活環境全般に関する42項目及び行動や意識、生活満足度や幸福感などに関する26項目）

■主観的指標をもとにしたアンケートの設計・実施

- ・対象：住民基本台帳から18～79歳の町民1,000人を無作為抽出。
- ・回答数411人（有効回答率41.1%）

【アンケート結果の総括】

幸福感と個々の項目の満足度の間に有意な関係が認められたものがあり、これらの項目は政策評価へ反映できる可能性がある。

- ・クロス集計：主観的指標の64項目のうち、47項目についてカイニ乗検定により有意な関係を確認。
- ・回帰分析：分散分析（検定）の結果、主観的指標の64項目のうち、13項目について有意な関係を確認。

◎客観的指標の選定

先行事例との比較や、町の施策と上記主観的指標との関連性を考慮の上、市町村別に公表の統計指標を選定。（6分野40指標）

◎指標体系案の提示

【指標体系】

分野	主観的指標		客観的指標
環境	町の生活環境全般に関する42項目	行動や意識、生活満足度や幸福感などに関する26項目	リサイクル率等7指標
健康、安全・安心			平均寿命等20指標
経済			耕作放棄地率等9指標
教育、文化			保育所待機児童数等2指標
コミュニティ・関係性			1人暮らしの高齢者世帯比率等2指標
ガバナンス			なし
その他			

今後の課題

◎政策評価ツールとして活用する場合の課題

■主観的指標の課題

- ・継続的な実施：町民の幸福感や意識の変化などを経年で見ていくことが重要。
- ・一定数を同一とした標本設計：5年後、10年後など加齢・ライフステージによる変化が捉えられるような工夫が必要。

■客観的指標の課題

今後、選定の適否の検証を含め、下記の点でブラッシュアップが必要。

- ・恒常的な見直し：適切な指標の適宜追加や入れ替えによる分野ごとの指標の偏りの解消。
- ・データの推移や平均値で評価：直近のデータだけでなく、過去数年間の推移や平均値を拾う。
- ・割合（比率）に加工：相対比較を考慮し、実数値ではなく、人口当たりなどの割合で捉える。
- ・持続可能性の視点：今後の指標の見直しにあたっては、持続可能性指標の追加を考慮。

## 第1章 調査研究の目的

### 1. 調査研究の背景

人々の価値観が物の豊かさから心の豊かさへと変化していると言われるようになって久しいが、我が国の社会経済が成熟期を迎え、これまでのように国内総生産（GDP: Gross Domestic Product）に代表される経済指標のみで人々の幸福を測ることの限界が指摘されている。

こうしたなか、2000年代後半以降、国民の幸福度や満足度を測る幸福度指標化の動きが国内外において高まっている。

本調査研究は、東日本大震災を経験した東北の暮らしの豊かさを見つめ直すとともに、東北の幸福度を評価するための指標を明示することを目的に、平成23年度から2カ年に亘り実施したものである。

### 2. 調査研究1年目の内容

1年目の平成23年度は、幸福度の概念整理など基礎的な部分について理解を深めるとともに、着目すべき視点や項目、指標などについてヒントを得る機会とした。

実施にあたっては、検討の母体として、当センターを事務局にアドバイザー（学識者）、自治体及び関係機関で構成する「幸福度定量化研究会」を設置した。

そして、外部有識者を講師に招聘した勉強会の開催や文献・資料調査により、幸福度の指標化にかかる国内外の既存の調査・研究及び事例の現状と課題について概観した。

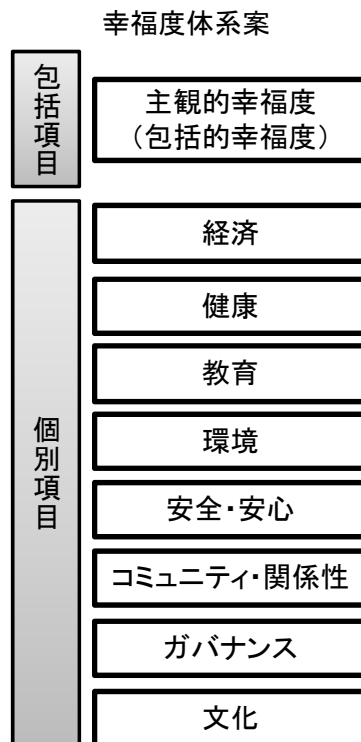
その結果、幸福度の指標化は、客観的指標主体、主観的指標主体及び両者を組み合わせたものの三つに類型化できることが分かった。

また、本調査研究では幸福度の概念を、これまでの学識者による幸福度研究を踏まえ、精神的な幸福感である「主観的幸福度（subjective happiness）」と金銭的な満足感である「生活満足度（life satisfaction）」の二つを包含した上位概念「well-being（幸福度）」として想定した。

その上で、国内外の事例にみる指標体系を参考としながら、包括項目に「主観的幸福度」、すなわち全体をまとめた「包括的幸福度」を掲げるとともに、「経済」「健康」「教育」「環境」「安全・安心」「コミュニティ・関係性」「ガバナンス」「文化」を個別項目とした幸福度体系を一つの試案として示した。（**下図参照**）

また、幸福度により期待される効果として、より良い地域の実現に向けて行政職員及び住民の意識が向上するように、双方が協働して指標化プロセスに参加する仕組みをつくるとともに、政策に反映させるツールとして活用していくことが重要であることを確認した。

※詳細は中間報告書を参照されたい。



### 3. 政策評価ツールとしての幸福度指標化の検証

1年目の成果を受け、調査研究の2年目は、特定の自治体をモデルケースに「幸福度指標化」を検討し、政策評価ツールとしての活用可能性を検証することに主眼においた。

モデルの選定にあたっては、「幸福度定量化研究会」に参加した県等を通じて共同研究を希望する基礎自治体を募ることとし、第2次総合計画（平成23年度～27年度）にかかる政策評価及び平成28年度を初年度とする第3次総合計画策定に向け、幸福度に着目した新たな指標化を検討している福島県会津美里町を選定した。（表1-1に町の概要を記載）

そして、同町との共同研究として以下の流れで進めた。

※町の共同研究への参画目的については参考資料を参照。

#### 幸福度指標化の検討・検証の流れ

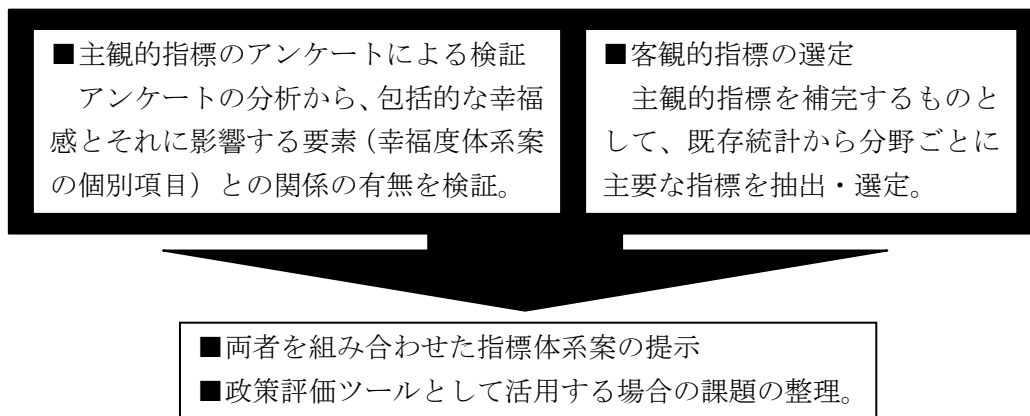




表 1-1 会津美里町の概要

分野	概要
位置・面積	会津高田町、会津本郷町及び新鶴村の3町村が合併して平成17年10月に発足。会津地域の中心都市である会津若松市の西隣に位置し、面積は276.37 km <sup>2</sup> （およそ7割が森林）。
人口・世帯	人口（H22国調）は22,737人。趨勢は減少基調で少子高齢化が進む（高齢化率は31.9%）。また、総世帯数は6,806世帯（1集落当たりでは20～50世帯）。
通勤・通学	会津若松市への通勤・通学者が多い。
公共交通	会津若松と町を結ぶ路線バスと会津若松駅を起点とするJR只見線（JRの本数は少なく不便）。町内の移動手段は、商工会が運営するデマンド交通（あいあいあタクシー）がある。
商業	従来から本郷地域の住民は会津若松へ、新鶴地域の住民は会津坂下に買い物に行く傾向があり、町内の商店は低迷。近年、本郷地域で新規出店の動き。
医療	高田地域に総合病院が一つあり、地域ごとに個人診療所が点在。
教育	小学校は、新鶴地域が1校、高田地域と本郷地域が2校（本郷地域では平成25年度に1校に統合予定）。中学校は3地域に1校ずつ。高校は高田地域に県立1校。
歴史・文化	伊佐須美神社、中田観音（弘安寺）などの神社仏閣が点在しているほか、彼岸獅子や御田植、大俵引きなど芸能や祭礼が古くから伝わる。
産業	産業構造は、第1次産業18.0%、第2次産業26.1%、第3次産業55.7% 主要産業は、基幹である農業（稲作主体に、高田梅、ワイン用ぶどうなどの複合経営）のほか、全国2位の生産高を誇る薬用人参や窯業（会津本郷焼）。
観光	歴史・文化資源を中心に観光資源は点在するものの、会津若松を訪れたついでに立ち寄る客が多く、町を目的とした観光客は少ない。
財政	平成22年度決算総額は約112.4億円（一般会計）。財政力指数は0.27、経常収支比率は77.9、実質公債費比率は13.9で厳しい状況。
その他	消防団はほぼ自治区単位で96班が組織されているが、新たな担い手の確保が難しく、現在加入している団員の脱退は難しい。

#### 4. 実施経過

なお、調査研究の実施にあたっては、1年目に引き続き吉野、佐藤両先生をアドバイザーに迎え、当センターを事務局にアドバイザーと会津美里町で構成する共同研究会を開催し、幸福度の指標化・測定にかかるフレーム（目的、指標体系・項目等）及びアンケートの実施にかかる検討・検証を行った。

##### 【共同研究会の構成】

アドバイザー 吉野 英岐 公立大学法人岩手県立大学総合政策学部教授  
佐藤 英仁 東北福祉大学総合福祉学部講師

調査対象自治体 会津美里町まちづくり政策課

オブザーバー 福島県企画調整部復興・総合計画課

事務局 公益財団法人東北活性化研究センター

##### 【共同研究会の開催概要】

	日 時	議 題
第1回	平成24年10月25日	(1) 会津美里町の参画目的及び町勢概要について (2) 今後のスケジュールについて (3) 指標体系・項目について
第2回	12月25日	(1) アンケート実施要領・標本設計について (2) アンケート調査票について (3) 今後のスケジュールについて
第3回	平成25年3月25日	(1) アンケートの集計結果について (2) アンケートの分析について (3) 指標体系・項目について (4) 報告書のまとめについて

## 第2章 主観的指標のアンケートによる検証

### 1. 主観的指標の選定とアンケートの設計

はじめに、会津美里町が第2次総合計画で掲げている政策体系と当センターが示した幸福度体系案を対比し、分野ごとの対応関係を明確にした。(表2-1参照)

表2-1 会津美里町第2次総合計画における政策体系と幸福度体系案の対比

会津美里町第2次総合計画の体系		東北活性研 体系案
環境共生の まちづくり	自然環境の保全	環境
	生活環境の保全	
	都市基盤の整備	
	交通体系の充実	
	循環型社会の形成	
安心安全な 暮らしづくり	保健体制の充実と医療の確保	健康、 安全・安心
	高齢者福祉の充実	
	障がい者福祉の充実	
	家庭子育て力の向上	
	互いに支えあう社会福祉の推進	
	防災・消防体制の充実	
	交通安全・防犯体制の充実	
誰もが尊重される社会の実現		
活力ある 産業づくり	農業の振興	経済
	林業の振興	
	商工業・地場産業の振興	
	観光の振興	
	雇用の促進	
こころ豊かな 人づくり	子ども教育の充実	教育、文化
	生涯学習の推進	
	生涯スポーツの推進	
	文化財の保護・活用と地域文化の継承	
町民主体の 地域づくり	コミュニティ活動の推進	コミュニティ・ 関係性
	交流の推進	
効率的で効果的な 行財政運営	健全な財政運営の推進	ガバナンス
	町民に信頼される行政の推進	
	町民参加の推進	

次に、上表の政策体系・指標体系をベースに、共同研究会でのディスカッションにより主観的指標を選定した(町の生活環境全般に関する42項目及び行動や意識、生活満足度や幸福感などに関する26項目)。

そして、主観的指標を核に、会津美里町で実施している町民意識調査や内閣府の「国民生活選好度調査」、さらには幸福度の指標化について実施・検討している国内の先行事例におけるアンケート及び各地の自治体で定期的実施されている既存の住民意識調査を参考にしながら、アンケートの質問項目等について設計を行った。(表2-2参照)

表 2-2 主観的指標とアンケートの質問項目一覧

分野	質問内容	質問形式	
あなた自身のこと	問1 属性		
	①性別	SA	
	②年齢	〃	
	③現在の家族構成	〃	
	④居住形態	〃	
	⑤居住地域	〃	
	⑥町外の居住歴	〃	
	⑦職業	〃	
	⑧平成24年の総世帯年収(税込)	〃	
会津美里町全般のこと	I 身の回りの環境 問2 会津美里町の自然環境・住環境について(満足、不満)	①身近な緑とのふれあいなど自然と調和した暮らし	〃
		②豊かな自然環境の保全	〃
		③ごみの減量やリサイクルの取り組み	〃
		④再生可能エネルギー(太陽光、風力等)の利用	〃
		⑤上下水道、道路、情報通信などの生活基盤	〃
		⑥日常的な買い物の便利さ	〃
		⑦日常的な移動手段の確保	〃
		II 医療・福祉 環境	問3 会津美里町の医療・福祉や健康増進にかかわる環境について(満足、不満)
	①病気やけがなどの際に利用できる医療サービス		〃
	②高齢者が利用できる介護・福祉サービス		〃
	③障がい者が利用できる介護・福祉サービス		〃
	④健康相談や指導、検診などの病気予防対策		〃
	⑤温泉入浴施設など健康増進施設の整備	〃	
	III 安全・安心な暮らし 会津美里町	問4 会津美里町の安全・安心な暮らしについて(満足、不満)	
		①交通安全にかかわる対策	〃
		②治安・防犯にかかわる対策	〃
		③町の防災・避難対策及び災害時の体制	〃
		④消防団の活動	〃
		⑤保育・子育て施設の整備	〃
		⑥地域全体で子育てを支える環境	〃
		⑦お年寄りが気軽に楽しめる場	〃
	IV 地域産業や雇用環境 経路	問5 会津美里町の経済産業や雇用環境について(満足、不満)	
		①農林業の状況	〃
		②農畜産物等の地産地消の取り組み	〃
		③会津本郷焼など地場産業の状況	〃
		④観光地・施設の振興と誘客	〃
		⑤多様な雇用の場や機会の確保	〃
	V 地域・文化の歴史・教育環境	問6 会津美里町の教育環境や歴史・文化の保存・継承について(満足、不満)	
①地域の教育環境		〃	
②学校の教育環境		〃	
③スポーツ活動を楽しむ環境		〃	
④生涯学習や趣味、文化活動を楽しむ環境		〃	
⑤神社仏閣やまつり・芸能など文化遺産の保存・継承		〃	
⑥農山村の風景や町並み景観の保存・継承		〃	
⑦伝統的な食材や郷土料理など食文化の保存・継承		〃	
⑧暮らしに根づいた昔からの風習や知恵の保存・継承		〃	

分野		質問内容	質問形式
会津美里町全般のこと	VI 地域の状況	問7 お住まいの地域の集落の状況について(満足、不満)	
		①自治会行事などの活動	SA
		②子どもとお年寄りなどとの世代間交流	"
		③困ったときに地域で支え合うお互い様の関係	"
		④困ったときに頼りになる友人や仲間との関係	"
		⑤自分が持っている知識や技量などが発揮できる環境	"
		⑥外部の人材や資源の受け入れ、交流	"
	VII 行政と住民の関わり	問8 会津美里町の行政運営について(満足、不満)	
		①各種施策・事業への町民ニーズの反映	"
		②行政の透明性と必要な情報の入手しやすさ	"
③住民と行政との意思疎通		"	
	④住民参加や協働のまちづくりの推進	"	
あなたの行動や意識、生活満足度や幸福感	VIII あなたの自身の行動	問9 あなた自身の行動について(積極的、消極的)	
		①身の回りの環境問題を意識した生活行動	"
		②身の回りの環境保全のための活動	"
		③規則正しい食事や運動など、自身の健康づくり	"
		④防犯・防災活動	"
		⑤学習活動	"
		⑥日常の趣味やスポーツ、文化活動の取り組みについて	"
		⑦地域のまつりや伝統行事への参画	"
	IX あなたの意識	問10 あなたの食生活について(積極的、消極的)	
		①安全な食材の購入とそれを使った食事	"
		②季節の旬の食材の購入とそれを使った食事	"
		③地域の伝統的な食材の購入とそれを使った食事	"
	X あなたの満足度	問11 あなたの日常的な生活意識について(感じる、感じない)	
		①集落の一員としての連帯感	"
		②日々の生活の中での孤独感	"
③日々の生活の中での不安や悩み		"	
問12 あなたの健康状態、食生活、くらし方についての満足度(満足、不満)			
	①自分の健康状態	"	
	②日常の食生活の内容	"	
	③仕事と生活の調和がとれた働き方	"	
	④仕事や生活の充実度	"	
	⑤あなたの世帯の収入	"	
XI あなたの幸福感	問13 あなたはいま幸せか(幸福である、幸福でない)	"	
	問14 幸福感を判断する際に重視する基準	MA	
	問15 幸福感を判断する際に重視する事	"	
あなたの思い	XII 町への思い	問16 会津美里町という地域に愛着や親しみを感じるか(感じる、感じない)	SA
		問17 会津美里町の特産品についてどれくらい挙げられるか(知っている、知らない)	"
		問18 会津美里町の歴史・文化資源についてどれくらい挙げられるか(同上)	"
		問19 会津美里町について誇りに思うこと	MA
		問20 これからも会津美里町に住み続けたいか(そう思う、そう思わない)	SA
	問21 あなたが考える「幸せな地域」「幸せな暮らし」について	自由記述	

注) 問2～20が主観的指標。

## 2. アンケートの実施

その上で、会津美里町民を対象とするアンケートを下記の要領で実施した。

### アンケート実施要領

#### ■調査名

暮らしや社会の状況と幸福度に関する町民意識調査

#### ■調査の目的

「幸福度」の測定及び指標策定の試みとして、会津美里町民の日頃の暮らし、地域社会の状況及び幸福感に対する意識を把握し、人々の幸福感とそれに影響すると思われる要素との関係性を分析・考察する。

その上で、アンケートの質問項目及び客観的指標に基づく幸福度指標体系の会津美里町モデルを提示し、政策評価等の今後の町政運営や町民の幸せな暮らしの実現に向けたまちづくりへの一助とする。

#### ■調査対象及び標本数

会津美里町民（18～79歳）を対象に住民基本台帳から1,000人を実無作為に抽出。

#### ■調査期間

平成25年2月7日～28日

#### ■調査方法

調査票の郵送による依頼及び回収

#### ■標本設計・抽出方法

平成22年国勢調査人口をもとに、合併前の旧3町村の18～79歳人口割合を算出。これを住民基本台帳（平成24年9月1日現在）に当てはめ、同台帳の18～79歳人口を推計し、標本（1,000人）の旧3町村別配分数を算出した。その上で、全町・旧町村ごとで、年齢階級・男女別の標本がほぼ同数になるよう割り振った。

#### 【年齢階級別標本数】

	18～79歳年齢階級別人口							18～79歳計
	18～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳		
会津美里町	167	167	167	167	167	165	1,000	
男	82	82	82	82	82	82	492	
女	85	85	85	85	85	83	508	
（旧会津高田町）	97	97	97	97	97	97	582	
男	48	48	48	48	48	48	288	
女	49	49	49	49	49	49	294	
（旧会津本郷町）	43	43	43	43	43	42	257	
男	21	21	21	21	21	21	126	
女	22	22	22	22	22	21	131	
（旧新鶴村）	27	27	27	27	27	26	161	
男	13	13	13	13	13	13	78	
女	14	14	14	14	14	13	83	

注) 18～19歳は、全体のウェイトが小さいため、標本数は20歳代と統合した。

### 3. アンケート結果の総括

#### (1) アンケート結果の検証

アンケートの結果、回答者数は411人で、有効回答率は41.1%であった。

そして、クロス集計及び回帰分析により、表2-2に示した質問項目のうち、主観的指標の計64項目（問1属性、複数回答の問14、15、19及び問21自由回答を除く）の集計データについて、幸福感（問13）との間に有意な関係が認められるかを検証した。

その結果、町民の幸福感と個々の項目の満足度の間に有意な関係が認められたものがあり、これらの項目については政策評価へ反映できる可能性のあることが明らかとなった。

なお、それぞれの分析の検証は以下のとおりである。

#### ①クロス集計による検証

クロス集計について、カイ二乗検定\*を行った。その結果、64項目のうち47項目において5%水準で有意な関係が認められた。（表2-3参照）

\***カイ二乗（ $\chi^2$ ）検定**とは、主にクロス集計表の度数分布の一様性を検定するものである。すなわち、観測データの分布（観測値）には誤差が含まれるため、理論的に求まる分布（期待値または理論値：例えば選択肢が四つあればどれも1/4で同じ確率となるはず）とは完全に一致しない。

そこで、観測値の分布は期待値（理論値）の分布とほぼ同じと見なせるかどうかを判断するのがカイ二乗検定である。最も基本的かつ広く用いられる方法はピアソンのカイ二乗検定で、一般的には5%水準で有意であるかどうかを判断する（数式は下記のとおり）。

$$\chi^2 = \sum \frac{(\text{観測値} - \text{期待値})^2}{\text{期待値}}$$

表 2-3 カイ二乗検定による有意の確認

質問内容	カイ二乗検定による有意	質問内容	カイ二乗検定による有意
問2 会津美里町の自然環境・住環境について	—	問7 お住まいの地域の集落の状況について	—
①身近な緑とのふれあいなど自然と調和した暮らし	あり	①自治会行事などの活動	あり
②豊かな自然環境の保全	あり	②子どもとお年寄りなどの世代間交流	なし
③ごみの減量やリサイクルの取り組み	なし	③困ったときに地域で支え合うお互い様の関係	あり
④再生可能エネルギー(太陽光、風力等)の利用	なし	④困ったときに頼りになる友人や仲間との関係	あり
⑤上下水道、道路、情報通信などの生活基盤	あり	⑤自分が持っている知識や技量などが発揮できる環境	あり
⑥日常的な買い物の利便さ	あり	⑥外部の人材や資源の受け入れ、交流	あり
⑦日常的な移動手段の確保	あり	問8 会津美里町の行政運営について	—
問3 会津美里町の医療・福祉や健康増進にかかわる環境について	—	①各種施策・事業への町民ニーズの反映	なし
①病气やけがなどの際に利用できる医療サービス	あり	②行政の透明性と必要な情報の入手しやすさ	なし
②高齢者が利用できる介護・福祉サービス	なし	③住民と行政との意思疎通	あり
③障がい者が利用できる介護・福祉サービス	なし	④住民参加や協働のまちづくりの推進	あり
④健康相談や指導、検診などの病气予防対策	あり	問9 あなた自身の行動について	—
⑤温泉入浴施設など健康増進施設の整備	あり	①身の回りの環境問題を意識した生活行動	あり
問4 会津美里町の安全・安心な暮らしについて	—	②身の回りの環境保全のための活動	あり
①交通安全にかかわる対策	あり	③規則正しい食事や運動など、自身の健康づくり	あり
②治安・防犯にかかわる対策	あり	④防犯・防災活動	なし
③町の防災・避難対策及び災害時の体制	なし	⑤学習活動	なし
④消防団の活動	あり	⑥日常の趣味やスポーツ、文化活動の取り組みについて	なし
⑤保育・子育て施設の整備	あり	⑦地域のまつりや伝統行事への参画	あり
⑥地域全体で子育てを支える環境	あり	問10 あなたの食生活について	—
⑦お年寄りが気軽に楽しめる場	なし	①安全な食材の購入とそれを使った食事	あり
問5 会津美里町の経済産業や雇用環境について	—	②季節の旬の食材の購入とそれを使った食事	あり
①農林業の状況	なし	③地域の伝統的な食材の購入とそれを使った食事	あり
②農畜産物等の地産地消の取り組み	なし	問11 あなたの日常の生活意識について	—
③会津本郷焼など地場産業の状況	なし	①集落の一員としての連帯感	あり
④観光地・施設の振興と誘客	なし	②日々の生活の中での孤独感	あり
⑤多様な雇用の場や機会の確保	あり	③日々の生活の中での不安や悩み	あり
問6 会津美里町教育環境や歴史・文化の保存・継承について	—	問12 あなたの健康状態、食生活、くらし方についての満足度	—
①地域の教育環境	あり	①自分の健康状態	あり
②学校の教育環境	なし	②日常の食生活の内容	あり
③スポーツ活動を楽しむ環境	なし	③仕事と生活の調和がとれた働き方	あり
④生涯学習や趣味、文化活動を楽しむ環境	なし	④仕事や生活の充実度	あり
⑤神社仏閣やまつり・芸能など文化遺産の保存・継承	なし	⑤あなたの世帯の収入	あり
⑥農山村の風景や町並み景観の保存・継承	なし	問16 会津美里町という地域に愛着や親しみを感じるか	あり
⑦伝統的な食材や郷土料理など食文化の保存・継承	なし	問17 会津美里町の特産品についてどれぐらい挙げられるか	あり
⑧暮らしに根づいた昔からの風習や知恵の保存・継承	なし	問18 会津美里町の歴史・文化資源についてどれぐらい挙げられるか	なし
		問20 これからも会津美里町に住み続けたいか	あり



## ②回帰分析による検証

次に、クロス集計と同じ問・項目について集計データを点数化し、回帰分析\*を行った。

そして、回帰分析の分散分析（検定）の結果、64項目のうち13項目について5%水準で有意な関係が認められた。（表2-4参照）

\*回帰分析とは、説明変数（問1、14、15及び19を除く各問）と被説明変数（幸福感）との関係を回帰式で表し、被説明変数が説明変数によってどの程度説明できるかを定量的に分析することである。すなわち、因果関係が想像される2つの変数の関係を調べるもので、被説明変数とは予測や要因分析を行う変数のこと、説明変数とは被説明変数に影響を与えると考えられる変数のことである（回帰式は下記のとおり）。

$$y = a + b x$$

y : 被説明変数
x : 説明変数
a : 切片 (x=0のときのyの値)
b : 回帰モデル (直線モデル) 想定したときの傾き

集計データの点数化については、以下のとおり選択肢に応じて4点～1点を割り振った。なお、回帰分析を行う場合の説明変数は連続尺度が望ましいが、今回は上記のように選択肢に後付で点数を割り振ったため、必ずしも連続尺度にはなっていない。そのため、有意な関係が認められた項目が少なかったと考えられる。

### 【点数化の方法】

各問の選択肢	点数
満足、積極的、感じる、そう思う	4点
やや満足、やや積極的、やや感じる、まあまあ感じる、どちらかといえばそう思う	3点
やや不満、やや消極的、あまり感じない、どちらかといえばそう思わない	2点
不満、消極的、感じない、そう思わない	1点

注) なお、問11②・③の点数は上記と逆順である。

表 2-4 回帰分析による有意の確認

質問内容	回帰分析の検定による有意	質問内容	回帰分析の検定による有意
問2 会津美里町の自然環境・住環境について	—	問7 お住まいの地域の集落の状況について	—
①身近な緑とのふれあいなど自然と調和した暮らし	なし	①自治会行事などの活動	あり
②豊かな自然環境の保全	なし	②子どもとお年寄りなどの世代間交流	なし
③ごみの減量やリサイクルの取り組み	なし	③困ったときに地域で支え合うお互い様の関係	なし
④再生可能エネルギー(太陽光、風力等)の利用	なし	④困ったときに頼りになる友人や仲間との関係	なし
⑤上下水道、道路、情報通信などの生活基盤	なし	⑤自分が持っている知識や技量などが発揮できる環境	なし
⑥日常的な買い物の便利さ	なし	⑥外部の人材や資源の受け入れ、交流	なし
⑦日常的な移動手段の確保	なし	問8 会津美里町の行政運営について	—
問3 会津美里町の医療・福祉や健康増進にかかわる環境について	—	①各種施策・事業への町民ニーズの反映	あり
①病気やけがなどの際に利用できる医療サービス	あり	②行政の透明性と必要な情報の入手しやすさ	なし
②高齢者が利用できる介護・福祉サービス	なし	③住民と行政との意思疎通	なし
③障がい者が利用できる介護・福祉サービス	なし	④住民参加や協働のまちづくりの推進	なし
④健康相談や指導、検診などの病気予防対策	なし	問9 あなた自身の行動について	—
⑤温泉入浴施設など健康増進施設の整備	あり	①身の回りの環境問題を意識した生活行動	なし
問4 会津美里町の安全・安心なくらしについて	—	②身の回りの環境保全のための活動	あり
①交通安全にかかわる対策	なし	③規則正しい食事や運動など、自身の健康づくり	なし
②治安・防犯にかかわる対策	なし	④防犯・防災活動	なし
③町の防災・避難対策及び災害時の体制	なし	⑤学習活動	なし
④消防団の活動	あり	⑥日常の趣味やスポーツ、文化活動の取り組みについて	なし
⑤保育・子育て施設の整備	なし	⑦地域のまつりや伝統行事への参画	なし
⑥地域全体で子育てを支える環境	なし	問10 あなたの食生活について	—
⑦お年寄りが気軽に楽しめる場	なし	①安全な食材の購入とそれを使った食事	なし
問5 会津美里町の経済産業や雇用環境について	—	②季節の旬の食材の購入とそれを使った食事	あり
①農林業の状況	なし	③地域の伝統的な食材の購入とそれを使った食事	なし
②農畜産物等の地産地消の取り組み	なし	問11 あなたの日常的な生活意識について	なし
③会津本郷焼など地場産業の状況	なし	①集落の一員としての連帯感	なし
④観光地・施設の振興と誘客	なし	②日々の生活の中での孤独感	なし
⑤多様な雇用の場や機会の確保	なし	③日々の生活の中での不安や悩み	なし
問6 会津美里町の教育環境や歴史・文化の保存・継承について	—	問12 あなたの健康状態、食生活、くらし方についての満足度	—
①地域の教育環境	なし	①自分の健康状態	なし
②学校の教育環境	なし	②日常の食生活の内容	なし
③スポーツ活動を楽しむ環境	なし	③仕事と生活の調和がとれた働き方	なし
④生涯学習や趣味、文化活動を楽しむ環境	あり	④仕事や生活の充実度	あり
⑤神社仏閣やまつり・芸能など文化遺産の保存・継承	なし	⑤あなたの世帯の収入	なし
⑥農山村の風景や町並み景観の保存・継承	なし	問16 会津美里町という地域に愛着や親しみを感じるか	あり
⑦伝統的な食材や郷土料理など食文化の保存・継承	なし	問17 会津美里町の特産品についてどれぐらい挙げられるか	あり
⑧暮らしに根づいた昔からの風習や知恵の保存・継承	なし	問18 会津美里町の歴史・文化資源についてどれぐらい挙げられるか	あり
		問20 これからも会津美里町に住み続けたいか	あり

## (2) アンケート結果をもとにした政策評価の試み

上述の検証結果を踏まえ、単純集計を含む各分析により見えてきた傾向から、政策評価への反映について考察をしてみた。以下にその概要を述べる。

はじめに、単純集計で満足あるいは不満の割合が高い項目を挙げた。

次に、クロス集計で有意な関係が認められた項目に絞り、満足層の幸福感が高い項目と不満層で幸福感が低い項目を抽出した。

さらに、回帰分析で有意な関係が認められた項目に絞り、幸福感への影響が強い項目と弱い項目を抽出した。(表2-5参照)

表2-5 各分析結果の概要

		満足、やや満足が6割以上の分野・項目	不満、やや不満が4割以上の分野・項目
単純集計	幸福感	<ul style="list-style-type: none"> <li>○満足か不満かにかかわらず町民の幸福感は総じて高い</li> <li>○自然環境（身近な緑とのふれあいなど自然と調和した暮らし、豊かな自然環境の保全等）</li> <li>○安全・安心な暮らし（治安・防犯にかかわる対策や消防団の活動等）</li> <li>○教育環境や歴史・文化の保存・継承（地域の教育環境、生涯学習や趣味、文化活動を楽しむ環境、神社仏閣やまつり・芸能など文化遺産の保存・継承等）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○住環境、医療・福祉や健康増進にかかわる環境（上下水道、道路、情報通信などの生活基盤、日常的な移動手段の確保、病気やけがなどの際に利用できる医療サービス等）</li> <li>○経済産業や雇用環境（農林業の状況、多様な雇用の場や機会の確保等）</li> <li>○集落の状況（困ったときに地域で支え合うお互い様の関係、自分が持っている知識・技量が発揮できる環境等）</li> <li>○行政運営（住民参加や協働のまちづくりの推進等）</li> </ul>
	自身の行動や意識、生活満足度に関わること	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自身の行動、食生活（規則正しい食事や運動など自身の健康づくり、季節の旬の食材の購入とそれを使った食事等）</li> <li>○日常的な生活意識（集落の一員としての連帯感、日々の生活の中の不安や悩み等）</li> <li>○健康状態、食生活、暮らし方についての満足度（自分の健康状態、日常の食生活、仕事と生活の調和した働き方、仕事や生活の充実度）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自身の行動（身の回りの環境問題を意識した生活行動、身の回りの環境保全のための活動、日常の趣味やスポーツ、文化活動の取り組み等）</li> </ul>

	有意な関係が認められた項目のうち	
	満足、やや満足の割合が6割以上で満足層の幸福感が高い項目	不満、やや不満の割合が4割以上で不満層の幸福感が低い項目
クロス集計	<ul style="list-style-type: none"> <li>○身近な緑とのふれあいなど自然と調和した暮らし</li> <li>○豊かな自然環境の保全</li> <li>○治安・防犯にかかわる対策</li> <li>○消防団の活動</li> <li>○保育・子育て施設の整備</li> <li>○地域の教育環境</li> <li>○集落の一員としての連帯感</li> <li>○日々の生活の中での不安や悩み</li> <li>○自分の健康状態</li> <li>○日常の食生活の内容</li> <li>○仕事と生活の調和した働き方</li> <li>○仕事や生活の充実度</li> <li>○町への愛着や親しみ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○上下水道、道路、情報通信などの生活基盤</li> <li>○日常的な移動手段の確保</li> <li>○困ったときに地域で支え合うお互い様の関係</li> <li>○自分が持っている知識・技量が発揮できる環境</li> <li>○住民参加や協働のまちづくりの推進</li> <li>○身の回りの環境問題を意識した生活行動</li> </ul>

	有意な関係が認められ項目のうち	
	幸福感への影響が強い項目	幸福感への影響が弱い項目
回帰分析	<ul style="list-style-type: none"> <li>○季節の旬の食材の購入とそれを使った食事</li> <li>○仕事や生活の充実度</li> <li>○町への愛着や親しみ</li> <li>○町の特産品の認知度</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○温泉入浴施設など健康増進施設の整備</li> <li>○生涯学習や趣味、文化活動を楽しむ環境</li> <li>○自治会行事などの活動</li> <li>○身の回りの環境保全のための活動</li> </ul>

これらの結果から、次のことがいえる。

- ◇ クロス集計では全般に、満足（やや満足）と回答した人の幸福感は高い反面、不満（やや不満）と回答した人の幸福感は低く、妥当な傾向が示された。このことから、主観的指標（アンケート項目）の選定は、概ね適切と判断できる。
- ◇ 回帰分析により、有意な関係が認められる項目が13項目抽出された。幸福感への影響の強弱は政策効果の有無と関係することから、政策評価をしていく上で参考になる。例えば、幸福感への影響が強い項目は、弱い項目に比べてより高い政策効果が期待できる。

また、「幸せな地域」「幸せな暮らし」について訊ねた自由回答のコメントを概観すると、「豊かな自然」や「人とのつながり、近所づきあいや助け合い」の面で、現状を好意的に捉えていることがうかがえる。一方、「生活基盤・利便性」や「産業活性化、経済的な豊かさと安定した収入」「雇用の創出と若者の定住」「歴史・文化」「若者や高齢者が活躍できる環境」の面では、現状に不満があることがうかがえる。

なお、各分析結果の詳細は次節に整理した。

#### 4. アンケート結果の分析内容

##### (1) 単純集計の内容

##### ① 幸福感や町への思いに関する項目

##### 〔幸福感〕

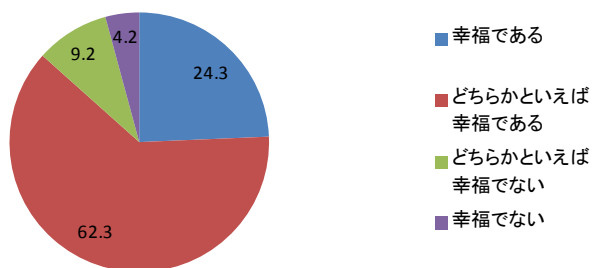
##### 町民の幸福感は総じて高い

「どちらかといえば幸福である」を含め、8割超（86.6%）が幸福と回答している。

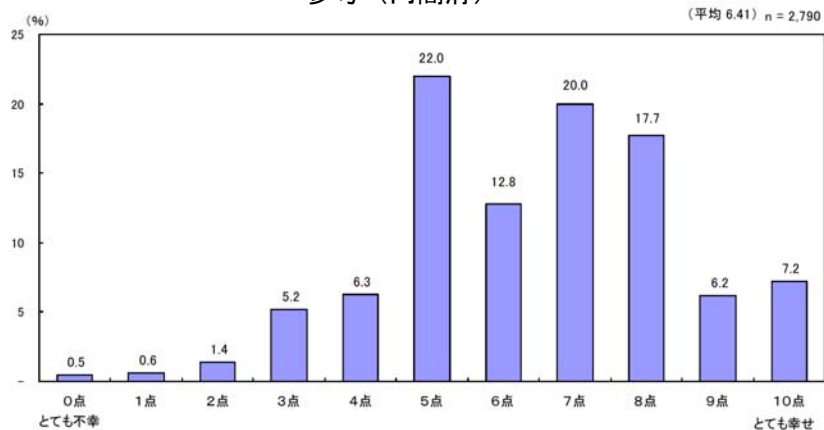
ちなみに、回答方式は異なるものの、内閣府の「平成23年度国民生活選好度調査」による幸福感と比較してみる。

同調査では10～0点の尺度で幸福か不幸かを訊ねており、10点と9点の合計を「幸福」（13.4%）とみなすと、本アンケートの方が10ポイント以上上回っており、会津美里町民の幸福感の水準は高い。

問13 あなたはいま幸せか(%)  
(n=403)



参考（内閣府）

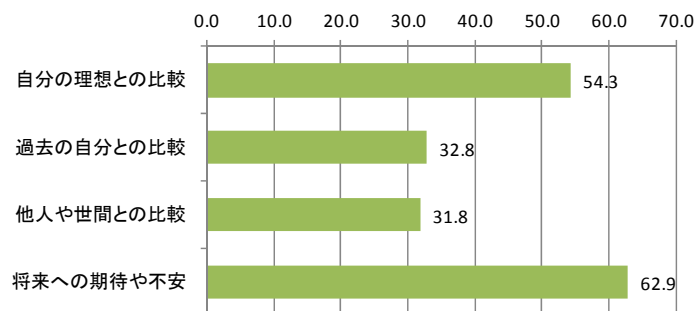


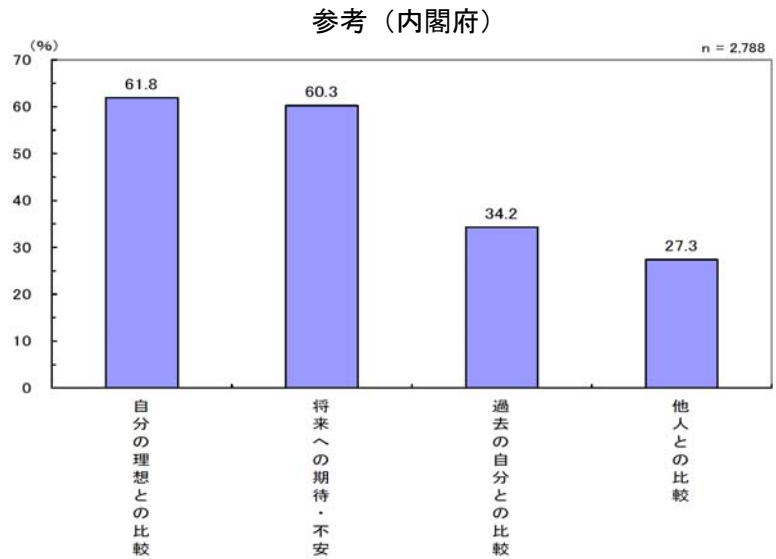
##### 〔幸福感を判断する際に重視する基準：上位2つ〕

「将来への期待や不安」（62.9%）と「自分の理想との比較」（54.3%）の割合が高く、「過去の自分との比較」（32.8%）と「他人や世間との比較」（31.8%）の割合は低い。

同じく、「平成23年度国民生活選好度調査」の結果をみると、傾向は同じである。

問14 幸福感を判断する際に重視する基準(%)  
(n=396)



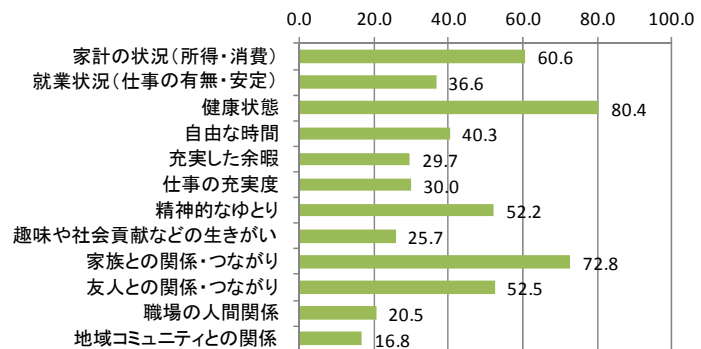


〔幸福感を判断する際に重視する事：あてはまるものすべて〕

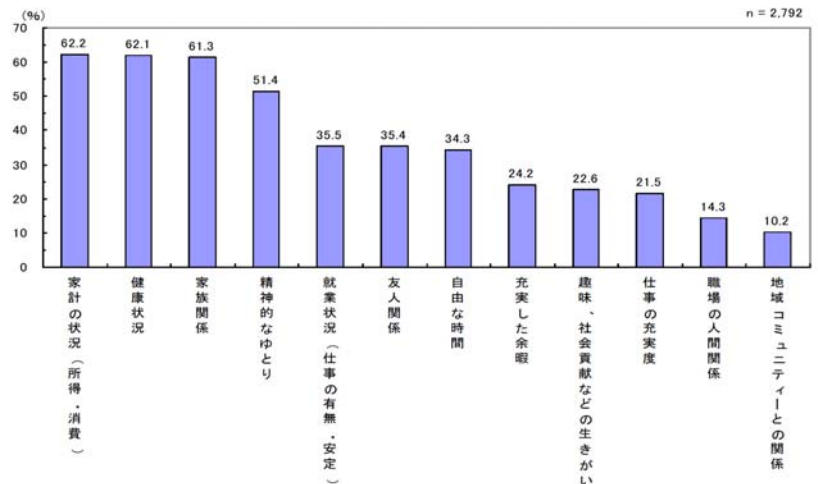
「健康状態」が最も多く（80.4%）、次が「家族との関係・つながり」（72.8%）である。以下は、「家計の状況（所得・消費）」（60.6%）、「友人との関係・つながり」（52.5%）、「精神的なゆとり」（52.2%）が続いている。

同じく、「平成 23 年度国民生活選好度調査」の結果をみると、会津美里町民は「家計の状況」よりも「健康状態」を重視していることがうかがえる。

問15 幸福感を判断する際に重視する事(%)  
(n=404)



参考（内閣府）



## ②町の生活環境全般に関する項目

問2～8の計42項目について傾向をみてる。(表2-6参照)

満足(やや満足)の割合が6割以上で不満(やや不満)を上回っているのは18項目とおよそ4割である。

これらの項目を整理すると、下記の三つの分野になる。

- 自然環境(身近な緑とのふれあいなど自然と調和した暮らし、豊かな自然環境の保全等)
- 安全・安心な暮らし(治安・防犯にかかわる対策、消防団の活動等)
- 教育環境や歴史・文化の保存継承(地域の教育環境、生涯学習や趣味、文化活動を楽しむ環境、神社仏閣やまつり・芸能など文化遺産の保存・継承等)

一方、不満(やや不満)の割合が4割以上の項目は24あり、およそ6割を占める。このうち、不満の割合が5割以上で満足(やや満足)を上回っているのは15項目と3割超である。

これらの項目を整理すると、下記の四つの分野になる。

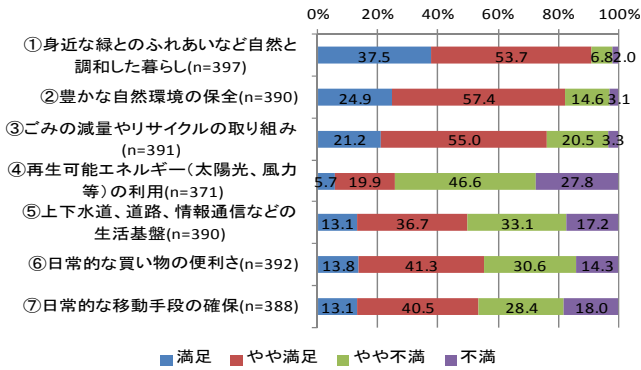
- 住環境、医療・福祉や健康増進にかかわる環境(上下水道、道路、情報通信などの生活基盤、日常的な移動手段の確保、病気やけがなどの際に利用できる医療サービス等)
- 経済産業や雇用環境(農林業の状況、多様な雇用の場や機会の確保等)
- 集落の状況(困ったときに地域で支え合うお互い様の関係、自分が持っている知識・技量が発揮できる環境等)
- 行政運営(住民参加や協働のまちづくりの推進等)

表 2-6 問 2～8 の単純集計の傾向

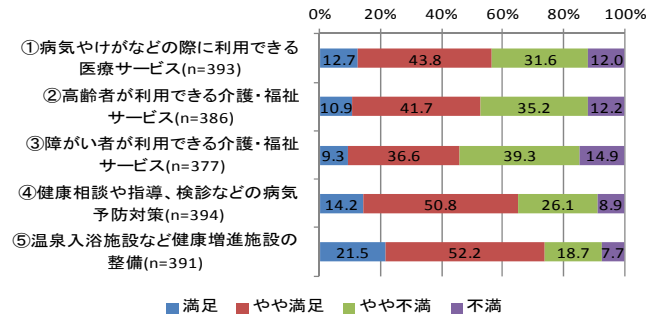
分野	質問内容	回答の傾向			
		満足の割合が 6割以上	不満の割合が 4割以上5割未 満	不満の割合が 5割以上で満 足を上回る	
会津美里町全般のこと	I 身の回りの環境 問2 会津美里町の自然環境・住環境について	①身近な緑とのふれあいなど自然と調和した暮らし	<input type="radio"/>		
		②豊かな自然環境の保全	<input type="radio"/>		
		③ごみの減量やリサイクルの取り組み	<input type="radio"/>		
		④再生可能エネルギー(太陽光、風力等)の利用			<input type="radio"/>
		⑤上下水道、道路、情報通信などの生活基盤			<input type="radio"/>
		⑥日常的な買い物の便利さ		<input type="radio"/>	
		⑦日常的な移動手段の確保		<input type="radio"/>	
	II 医療・福祉 問3 会津美里町の医療・福祉や健康増進にかかわる環境について	①病気やけがなどの際に利用できる医療サービス		<input type="radio"/>	
		②高齢者が利用できる介護・福祉サービス		<input type="radio"/>	
		③障がい者が利用できる介護・福祉サービス			<input type="radio"/>
		④健康相談や指導、検診などの病気予防対策	<input type="radio"/>		
		⑤温泉入浴施設など健康増進施設の整備	<input type="radio"/>		
	III 安全・安心な暮らし 問4 会津美里町の安全・安心な暮らしについて	①交通安全にかかわる対策	<input type="radio"/>		
		②治安・防犯にかかわる対策	<input type="radio"/>		
		③町の防災・避難対策及び災害時の体制		<input type="radio"/>	
		④消防団の活動	<input type="radio"/>		
		⑤保育・子育て施設の整備	<input type="radio"/>		
		⑥地域全体で子育てを支える環境		<input type="radio"/>	
		⑦お年寄りが気軽に楽しめる場			<input type="radio"/>
	IV 地域経済・雇用の環境 問5 会津美里町の経済産業や雇用環境について	①農林業の状況			<input type="radio"/>
		②農畜産物等の地産地消の取り組み			<input type="radio"/>
		③会津本郷焼など地場産業の状況		<input type="radio"/>	
		④観光地・施設の振興と誘客			<input type="radio"/>
		⑤多様な雇用の場や機会の確保			<input type="radio"/>
	V 歴史・文化環境 問6 会津美里町ので教育環境や歴史・文化の保存・継承について	①地域の教育環境	<input type="radio"/>		
		②学校の教育環境	<input type="radio"/>		
		③スポーツ活動を楽しむ環境	<input type="radio"/>		
		④生涯学習や趣味、文化活動を楽しむ環境	<input type="radio"/>		
⑤神社仏閣やまつり・芸能など文化遺産の保存・継承		<input type="radio"/>			
⑥農山村の風景や町並み景観の保存・継承		<input type="radio"/>			
⑦伝統的な食材や郷土料理など食文化の保存・継承		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		
⑧暮らしに根づいた昔からの風習や知恵の保存・継承			<input type="radio"/>		
VI 集落の状況 問7 お住まいの地域の集落の状況について	①自治会行事などの活動	<input type="radio"/>			
	②子どもとお年寄りなどの世代間交流			<input type="radio"/>	
	③困ったときに地域で支え合うお互い様の関係		<input type="radio"/>		
	④困ったときに頼りになる友人や仲間との関係	<input type="radio"/>			
	⑤自分が持っている知識や技量などが発揮できる環境			<input type="radio"/>	
	⑥外部の人材や資源の受け入れ、交流			<input type="radio"/>	
VII 市民生活と行政のかかわり 問8 会津美里町の行政運営について	①各種施策・事業への町民ニーズの反映			<input type="radio"/>	
	②行政の透明性と必要な情報の入手しやすさ			<input type="radio"/>	
	③住民と行政との意思疎通			<input type="radio"/>	
	④住民参加や協働のまちづくりの推進			<input type="radio"/>	



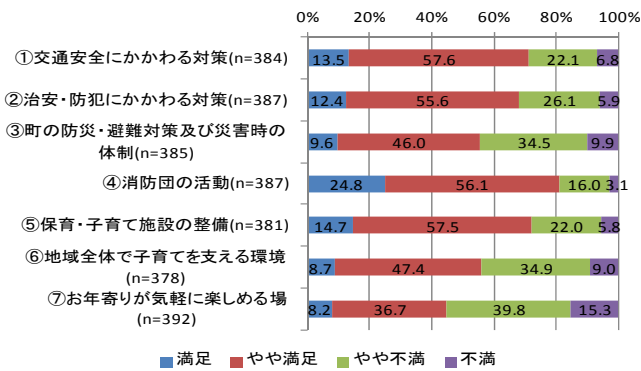
### 問2 会津美里町の自然環境・住環境について (%)



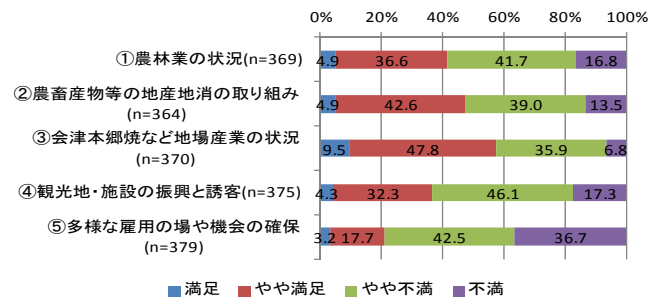
### 問3 近隣自治体を含めた会津美里町の医療・福祉や健康増進にかかわる環境について (%)



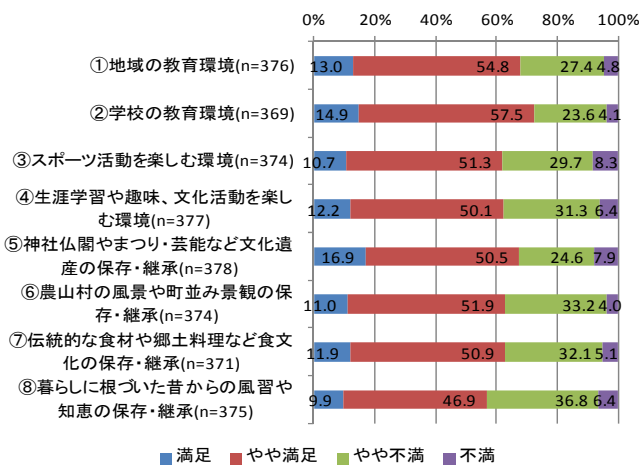
### 問4 会津美里町の安全・安心な暮らしについて (%)



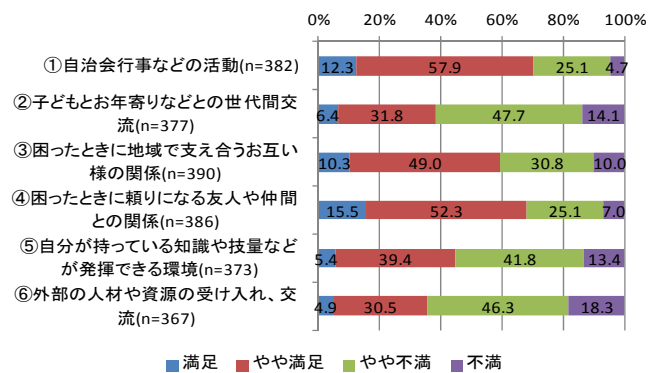
### 問5 会津美里町の経済産業や雇用環境について (%)



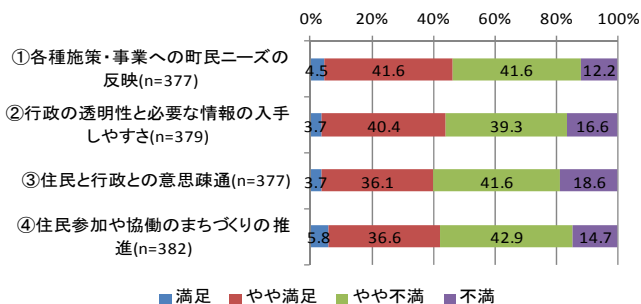
### 問6 会津美里町の教育環境や歴史・文化の保存・継承について (%)



### 問7 お住まいの地域の集落の状況について (%)



### 問8 会津美里町の行政運営について (%)



### ③自身の行動や意識、生活満足度に関する項目

次に、問9～12の計18項目について傾向をみる。(表2-7参照)

満足(やや満足)や積極的(やや積極的)、感じる(やや感じる)の割合が6割以上で、不満(やや不満)や消極的(やや消極的)、感じない(あまり感じない)を上回っているのは8項目と4割超である。

これらの項目を整理すると、下記の三つの分野になる。

- 自身の行動、食生活(規則正しい食事や運動など自身の健康づくり、季節の旬の食材の購入とそれを使った食事等)
- 日常的な生活意識(集落の一員としての連帯感、日々の生活の中での不安や悩み等)
- 健康状態、食生活、暮らし方についての満足度(自分の健康状態、日常の食生活、仕事と生活が調和した働き方、仕事や生活の充実度)

一方、不満(やや不満)や消極的(やや消極的)、感じない(あまり感じない)の割合が4割以上の項目は10\*あり、5割を超える。このうち、不満(やや不満)や消極的(やや消極的)、感じない(あまり感じない)の割合が5割以上で、満足(やや満足)や積極的(やや積極的)、感じる(やや感じる)を上回っているのは5項目\*と3割弱である。

これらの項目を整理すると、下記の分野になる。

- 自身の行動(身の回りの環境問題を意識した生活行動、身の回りの環境保全のための活動、日常の趣味やスポーツ、文化活動の取り組み等)

\*問11②(日々の生活の中での孤独感)及び③(日々の生活の中での不安や悩み)は「あまり感じない」と「感じない」がプラスの回答であるため当てはまらない。

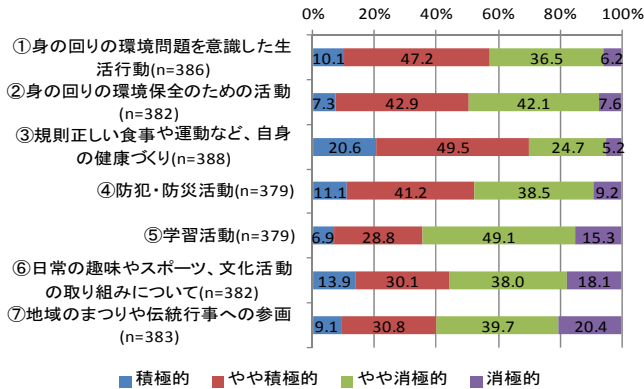
このように、「自分の健康状態や食生活の内容」には満足しており、それに関連した行動も積極的な姿勢がうかがえる。また、「仕事と生活が調和した働き方、仕事や生活の充実度」についても概ね満足していることがうかがえる。

一方、地域社会活動や趣味等への参画、取り組みについてはやや消極的な傾向がうかがえる。

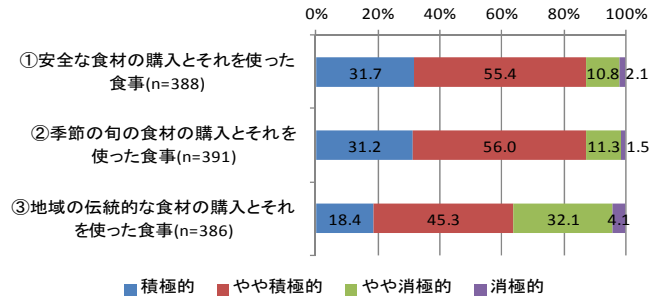
表 2-7 問9～12の単純集計の傾向

分野	質問内容	回答の傾向		
		積極的、感じる、満足の割合が6割以上	消極的、感じない、不満の割合が4割以上5割未満	消極的、感じない、不満の割合が5割以上
あなたの行動や意識、生活満足度や幸福感	問9 あなた自身の行動について			
	①身の回りの環境問題を意識した生活行動		○	
	②身の回りの環境保全のための活動		○	
	③規則正しい食事や運動など、自身の健康づくり	○		
	④防犯・防災活動		○	
	⑤学習活動			○
	⑥日常の趣味やスポーツ、文化活動の取り組みについて			○
⑦地域のまつりや伝統行事への参画			○	
あなたの食生活について	問10 あなたの食生活について			
	①安全な食材の購入とそれを使った食事	○		
	②季節の旬の食材の購入とそれを使った食事	○		
あなたの日常的な生活意識について	問11 あなたの日常的な生活意識について			
	①集落の一員としての連帯感	○		○
	②日々の生活の中での孤独感			○
あなたの健康状態、食生活、暮らし方についての満足度	問12 あなたの健康状態、食生活、暮らし方についての満足度			
	①自分の健康状態	○		
	②日常の食生活の内容	○		
	③仕事と生活の調和がとれた働き方	○		
	④仕事や生活の充実度	○		
	⑤あなたの世帯の収入			○

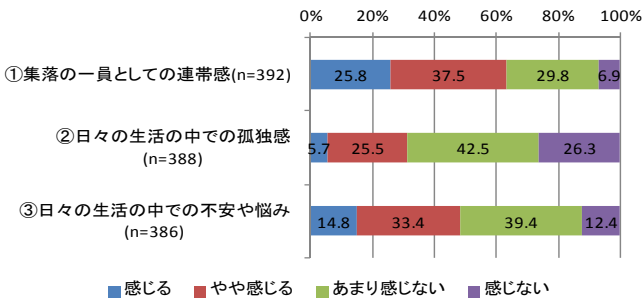
問9 あなた自身の行動について



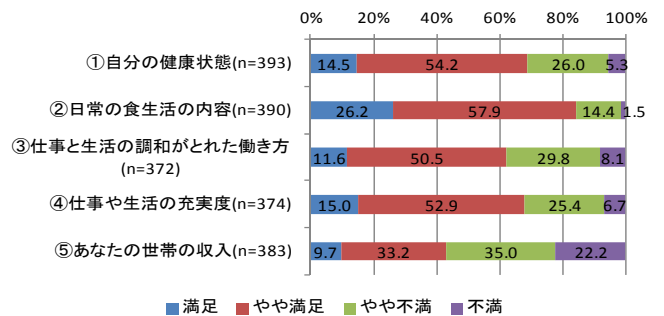
問10 あなたの食生活について



問11 あなたの日常的な生活意識について



問12 あなたの健康状態、食生活、暮らし方についての満足度



※属性を含む単純集計の実数表については参考資料を参照。

## (2) クロス集計の内容

前節の検証 (p.10) により有意な関係が認められた項目について傾向をみていく。

### ①町の生活環境全般及び自身の行動や意識、生活満足度と幸福感

**不満 (消極的、感じない) の層では満足 (積極的、感じる) の層に比べて幸福感が低い**

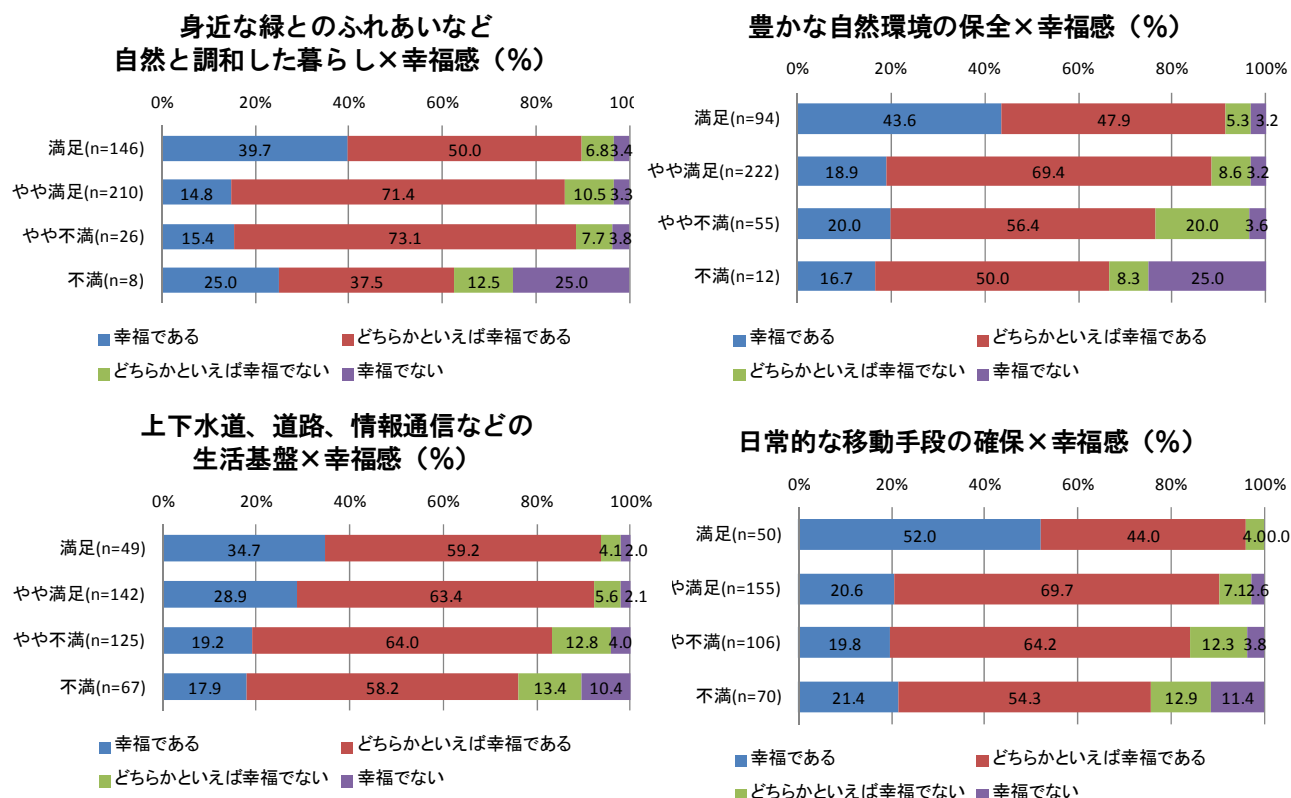
問2～12の60項目のうち、幸福感との間に有意な関係が認められた37項目\*についてみると、幸福感が総じて高い中で、全般的には「満足 (積極的、感じる)」と回答した人の幸福感の割合が高いのに対し、「不満 (消極的、感じない)」と回答した人の幸福感は低くなっており、段階的に低下する傾向を示している。

例えば、治安・防犯全にかかわる対策や消防団の活動 (問4)、集落の一員としての連帯感や日々の生活の中での不安や悩み (問11)、自分の健康状態や日常の食生活の内容、仕事と生活の調和した働き方及び仕事や生活の充実度 (問12) などの項目は、単純集計で満足の割合が6割以上あり、満足層の幸福感が高い。

一方、上下水道、道路、情報通信などの生活基盤や日常的な移動手段の確保 (問2)、困ったときに地域で支え合うお互い様の関係、自分が持っている知識・技量が発揮できる環境 (問7)、住民参加や協働のまちづくりの推進 (問8)、身の回りの環境問題を意識した生活行動 (問9) などの項目は、単純集計で不満の割合が4割以上あり、不満層の幸福感が低い。

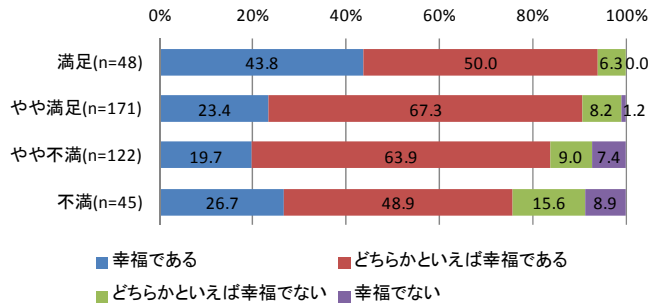
\*問11② (日々の生活の中での孤独感) 及び③ (日々の生活の中での不安や悩み) は「あまり感じない」と「感じない」がプラスの回答。

### 〔問2 会津美里町の自然環境・住環境と幸福感〕



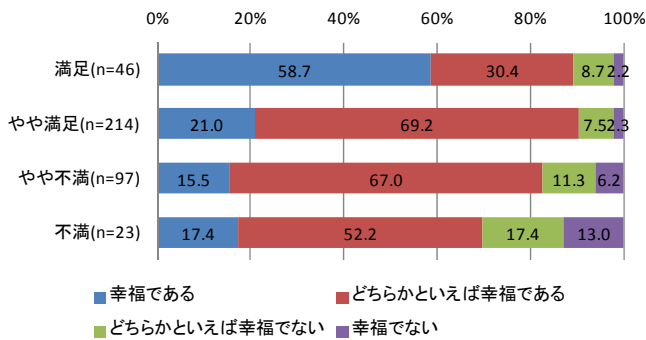
〔問3 会津美里町の医療・福祉や健康増進にかかわる環境と幸福感〕

病気やけがなどの際に利用できる  
医療サービス×幸福感 (%)

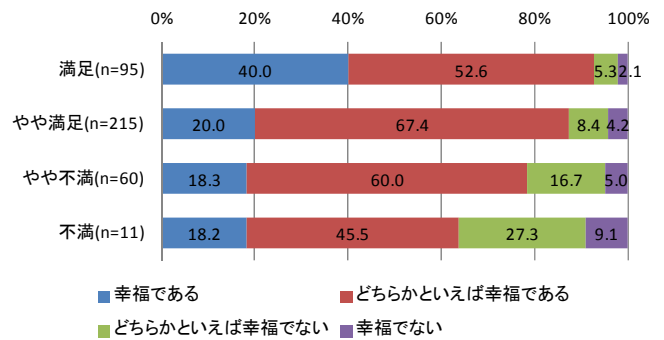


〔問4 会津美里町の安全・安心なくらしと幸福感〕

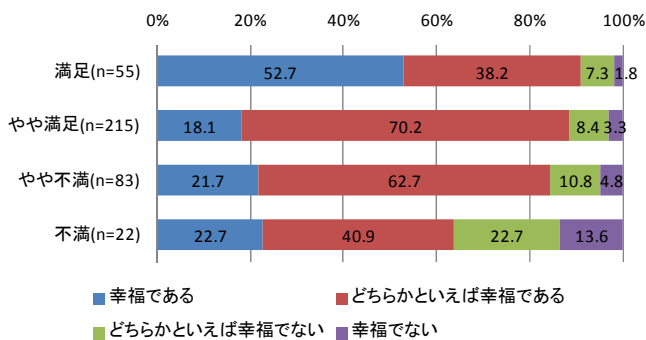
治安・防犯にかかわる対策×幸福感 (%)



消防団の活動×幸福感 (%)

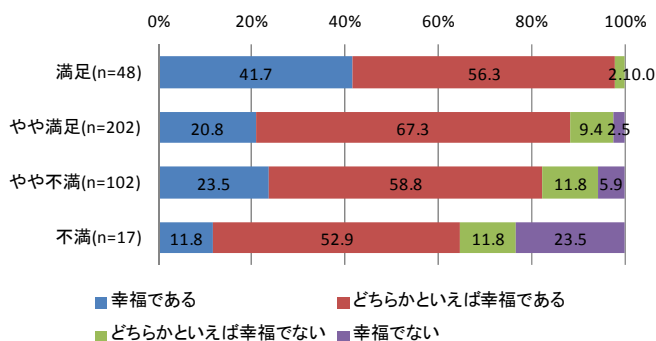


保育・子育て施設の整備×幸福感 (%)

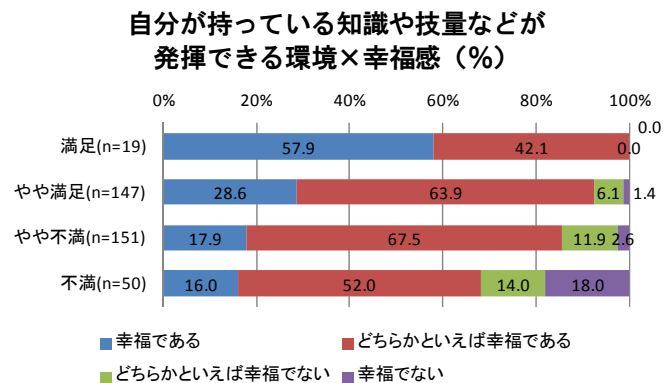
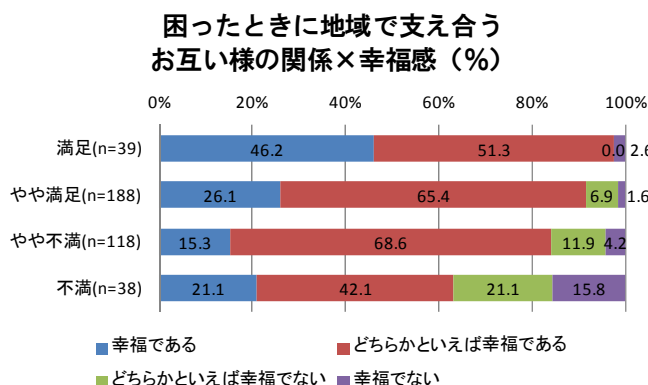


〔問6 会津美里町の教育環境や歴史・文化の保存・継承と幸福感〕

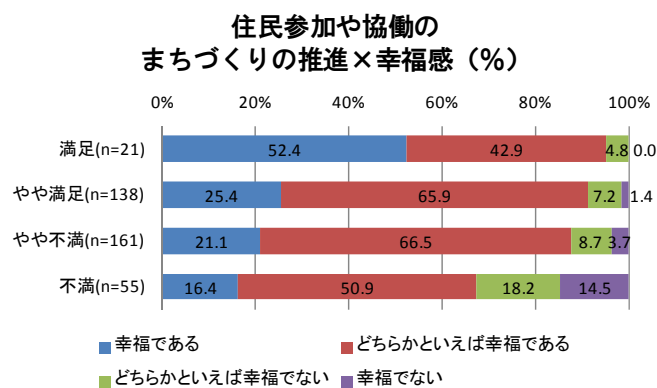
地域の教育環境×幸福感 (%)



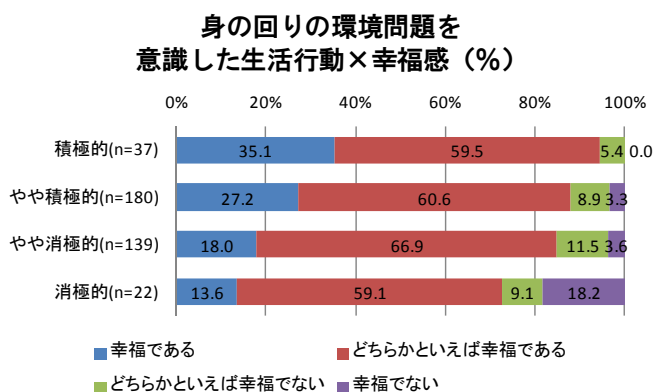
〔問7 お住まいの地域の集落の状況と幸福感〕



〔問8 会津美里町の行政運営と幸福感〕

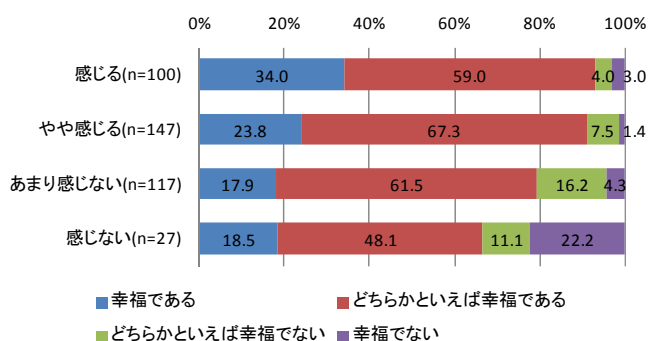


〔問9 あなた自身の行動と幸福感〕

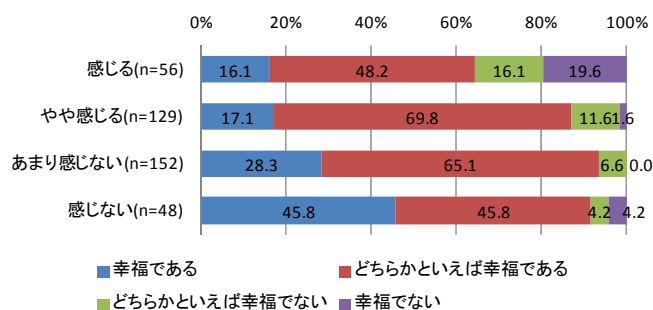


〔問 1 1 あなたの日常的な生活意識と幸福感〕

集落の一員としての連帯感×幸福感 (%)

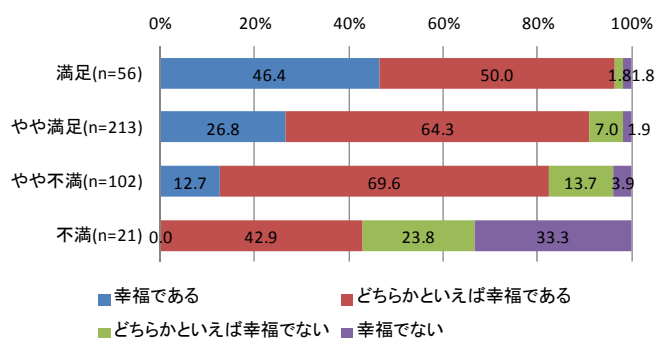


日々の生活の中での不安や悩み×幸福感 (%)

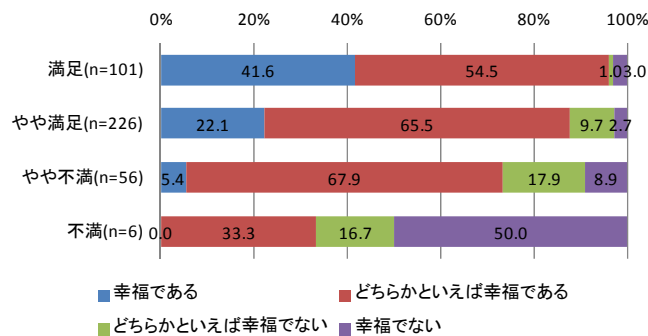


〔問 1 2 あなたの健康状態、食生活、くらし方についての満足度と幸福感〕

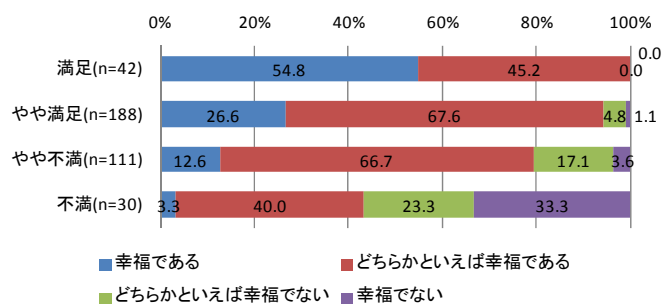
自分の健康状態×幸福感 (%)



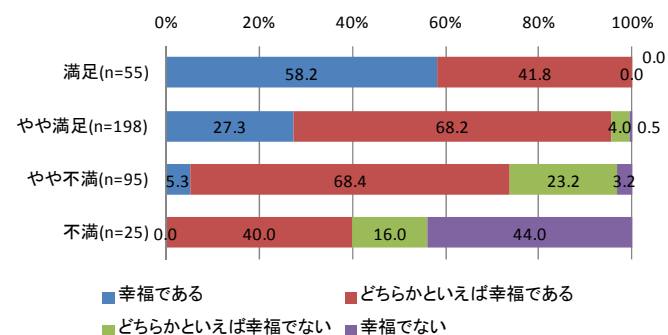
日常の食生活の内容×幸福感 (%)



仕事と生活の調和がとれた働き方×幸福感 (%)



仕事や生活の充実度×幸福感 (%)

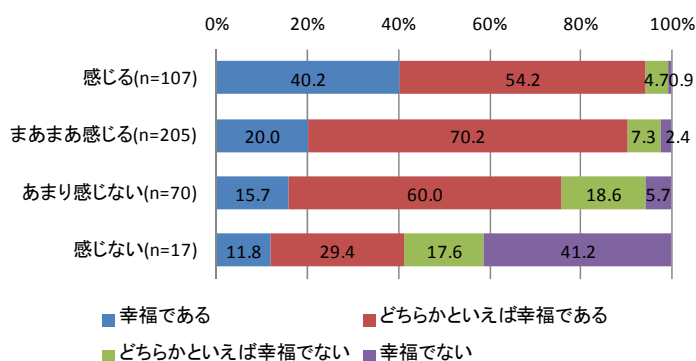


## ②町への愛着や親しみと幸福感

### 町に対する愛着や親しみと幸福感には関連性がある

町への愛着や親しみと幸福感との関係を見ると、愛着や親しみを「感じる」と回答した人の幸福感が最も高く（「どちらかといえば幸福である」を含め94.4%）、「まあまあ感じる」（90.2%）、「あまり感じない」（75.7%）、「感じない」（41.2%）と回答した人の幸福感は段階的に減っている。

町への愛着や親しみ×幸福感（%）

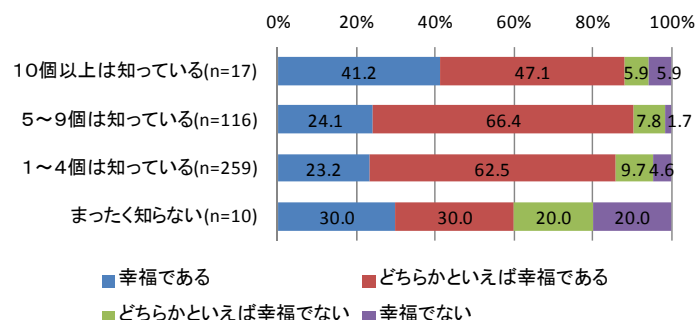


## ③町の特産品の認知度と幸福感

### 特産品の認知度と幸福感には関連性がある

特産品の認知度と幸福感の関係を見ると、「10個以上は知っている」と回答した人の幸福感が最も高く（「どちらかといえば幸福である」を含め88.3%）、「まったく知らない」（60.0%）と回答した人の幸福感は低い。

町の特産品についてどれぐらい  
挙げられるか×幸福感（%）

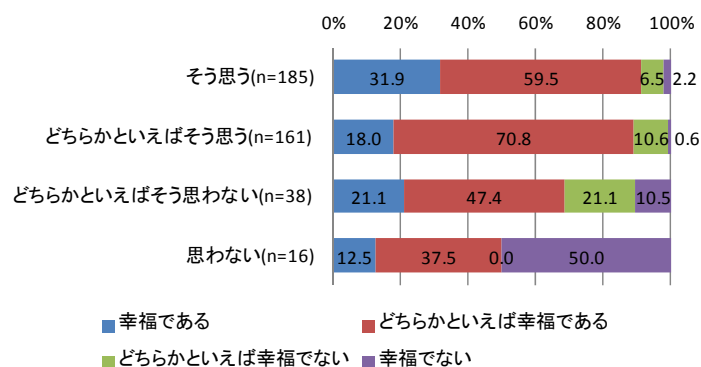


## ④定住志向と幸福感

### 定住志向と幸福感には関連性がある

定住志向の有無と幸福感との関係を見ると、「そう思う」と回答した人の幸福感は高く（「どちらかといえば幸福である」を含め91.4%）、「どちらかといえばそう思う」（88.8%）、「どちらかといえばそう思わない」（68.5%）、「思わない」（50.0%）と回答した人の幸福感は段階的に減っている。

町への定住志向×幸福感（%）



※クロス集計の実数表及び上記未掲載のグラフについては参考資料を参照。



### (3) 回帰分析の内容

前節の検証 (p.12) で有意な関係が認められた 13 項目について、分析により得られた標準化係数\*をもとに傾向をみていく。(表 2-8 参照)

\*標準化係数 ( $\beta$ ) とは、非標準化係数 (他の変数の影響を一定にして、一つの変数にのみ絞ったその変数の全体への影響を示したものを) を平均 0、分散 1 に標準化したもので、ある変数が他の変数に比べてどのように影響しているかを見るものである。

通常は  $-1 \leq \beta \leq +1$  の範囲を取ることから、絶対値「+1」に近いほどプラスの影響力が強く、「-1」に近いほどマイナスの影響力が強いと解釈できる。また、「0」に近いほど影響力はないと解釈できる。

表 2-8 13 項目の標準化係数

質問項目		標準化係数 ( $\beta$ )
問3	①病気やけがなどの際に利用できる医療サービス	0.200
	⑤温泉入浴施設など健康増進施設の整備	0.084
問4	④消防団の活動	0.209
問6	④生涯学習や趣味、文化活動を楽しむ環境	0.082
問7	①自治会行事などの活動	0.088
問8	①各種施策・事業への町民ニーズの反映	0.160
問9	②身の回りの環境保全のための活動	0.096
問10	②季節の旬の食材の購入とそれを使った食事	0.373
問12	④仕事や生活の充実度	0.460
問16	会津美里町という地域に愛着や親しみを感じるか	0.444
問17	会津美里町の特産品についてどれぐらい挙げられるか	0.307
問18	会津美里町の歴史・文化資源についてどれぐらい挙げられるか	0.134
問20	これからも会津美里町に住み続けたいか	0.229

注) 黄色の網掛けは幸福感への影響が強い項目、緑色の網掛けは影響が弱い項目。

標準化係数はいずれの項目も 0 から 1 の間の値を示しており、幸福感に対する影響はプラスに作用していることがわかる。

その中で項目間の比較をすると、相対的に影響が最も強いのは、仕事や生活の充実度 (問 12④) で、以下、町に愛着や親しみを感じるか (問 16)、季節の旬の食材の購入とそれを使った食事 (問 10②)、町の特産品についてどれぐらい挙げられるか=認知度 (問 17) の順である。

逆に、影響が最も弱いのは、生涯学習や趣味、文化活動を楽しむ環境 (問 6④) で、以下、温泉入浴施設など健康増進施設の整備 (問 3⑤)、自治会行事などの活動 (問 7①)、身の回りの環境保全のための活動 (問 9②) である。

#### (4) 自由回答の内容

最後に、問21の自由回答の内容について、幸福感との関係から考察する。

自由回答には、町に対する意見・要望や感想なども含め、4割を超える回答者からコメントが寄せられた。

この中から、町民が考える「幸せな地域」「幸せな暮らし」にかかる理想の姿について、寄せられた主だったコメントをキーワードで分類すると、概ね次の10に整理できる。

- ①豊かな自然（自然を感じることができる住環境）
- ②生活基盤・利便性（買い物や交通利便性の向上、下水道等の生活基盤の整備）
- ③自分や家族の健康（健康で長生きすること）
- ④子育て、子どもの成長（安心して子育てできる環境、子どもの成長が町の活力）
- ⑤老後の不安がない暮らし、安心・安全な暮らし（老後に不安がなく安心して暮らせること）
- ⑥産業活性化、経済的な豊かさと安定した収入、雇用の創出と若者の定住（企業誘致や地場産業の振興等により雇用を確保して若者の流出を防ぐ、豊かな生活には安定した収入が不可欠など）
- ⑦歴史・文化（町の歴史や文化の良さをもっと認識し、PRすること）
- ⑧人とのつながり、近所づきあいや助け合い（世代間交流、困ったときの支え合い、助け合い）
- ⑨若者や高齢者が活躍できる環境（自分の持っている能力や趣味を生かして地域に貢献する、アイデアややる気のある人が活躍できる環境をつくって支援するなど）
- ⑩精神的豊かさ、足を知る（精神的な豊かさが幸せな暮らしにつながる、人それぞれの足りていると思える事を満足できれば幸せなど）

これらを、現状におけるプラスの面とマイナスの面に分けてみると、「豊かな自然」や「人とのつながり、近所づきあいや助け合い」については好意的に捉えていることがうかがえる。

一方、「生活基盤・利便性」や「産業活性化、経済的な豊かさと安定した収入」「雇用の創出と若者の定住」「歴史・文化」「若者や高齢者が活躍できる環境」については、理想の裏返しとして現状に不満のあることがうかがえる。

なお、キーワード別の主なコメントは、以下のとおりである。（表2-9参照）

表2-9 自由回答のキーワード別コメント  
(問21 あなたが考える「幸せな地域」「幸せな暮らし」について)

分類(キーワード)	主なコメント	性別	年齢
○豊かな自然	豊かな自然で住み良い家庭環境の中で生活できること。	女性	64
	自然を感じることができる。	女性	75
	安心して暮らせる美しい自然(山や川)。	男性	69
	自然が豊かで旬の農産物が手に入りやすい事。	女性	47
	鳥たちがすめるような自然な地域。	女性	55
	家族の健康と、地域の方達と仲良く、自然豊かな会津美里町が最高です。	女性	60
○生活インフラ・利便性	豊かな自然が多く、子育てしやすい環境にはあると思いますが、実際には子供が安心して遊べる、公園など少ないと思います。私は3年前に転居して来ましたが(他県から)、山、川など豊かな自然に囲まれている事は誇れるものの、バスや、交通手段など、まだまだ遅れている。	女性	31
	下水道の整備は必要だと思う。	男性	48
	買い物に不便がない。病院も近い。	女性	75
	美里町は自然に囲まれていて、とても気持ちもおだやかに、毎日暮らせるので、そういった意味では幸せな地域、暮らしだと思う。しかし、生活するには正直不便。近くにスーパーもコンビニもなく、電車やバスなどの公共交通手段も1日何本とかなのでそこを本当になんとかしてほしい。あと冬の雪道。除雪をもう少しきれいにしてほしい。事故の原因だと思う。自然に囲まれているから故のことはあるが、もっとそういう面で生活しやすい美里町になれば、若者もずっとここに住みたいと思うだろうし、幸福度は上がると思う。	女性	22
	豊かな自然や文化が大切に守られ年齢を重ねても一人で自由に動ける交通手段や施設、マーケットがあること。一人暮らしでも安心して暮せること。	女性	64
	町内の病院の充実(一例、各科毎日診察が出来る事、特に整形外科等)と各道路の整備(特に消防車、救急車が入れるように道の拡幅が必要だと思います)。	男性	70
○自分や家族の健康	年を重ねるごとに自立した生活を送るためには不安、不便を感じない住環境がよいと思う。医療、文化、交通の便等々、とにかく便利なおところがよい。まわりから住んでみたいと思われる地域が「幸せな地域」。	女性	61
	健康で長生き。	女性	43
	家族が健康で楽しくいれる事。	女性	22
	家族が健康で地域の方々と声をかけ合い助け合い、日常生活がスムーズに送れるようにと思うこの頃です。	女性	69
	家族が健康で収入もあって楽しく暮らせて笑顔でいられる事。人の悪口を言わない近所づきあいが出る、何でもすぐ相談のってくれる人がいる事。	女性	51
	「幸福度」は個人の「健康」が出発点だと思います。それをクリアしないと、地域の事まで気持ちが動きませんね…でも「不健康」になってはじめて自分以外の事に感謝ができるのでしょうか…?	女性	57
○子育て、子どもの成長	子供がのびのび外であそぶことができる町づくり。あいさつ、ありがとう、感謝を持つ子供たちにしたいです。	女性	56
	子供が安全に楽しく学校や家庭で生活し成長していくことができれば幸せだと感じます。	女性	51
	自然豊かで、子育てしやすい環境、子供が安心して遊べる施設(室内であそべる所)。	男性	36
	教育が充実して子育てがしやすい事。	女性	47
	子供達が安心して成長できる町です。お父さん、お母さん達が子供達を安心して育児できる環境を作ること。地域の中で、みんながあなたかく見守ることができる。又若い人達の働く場所があり生活が安定して送れる事が重要。	女性	57
	町外の人も違和感無く、心地良く、安住出来、安心して子育てができる環境を望みます。	女性	53
○老後の不安がない暮らし、安心・安全な暮らし	地域の子供達を大人皆んなで支える安全で安心して遊べる環境、地域づくり。	女性	66
	子供が沢山いて、いつもここにこしているお年寄りがいて、気軽にあいさつできる環境。子供にあいさつして元気に返事が返ってくるような地域。何よりも元気で明るい子供がいっぱいいて欲しい。	女性	57
	子供が安心して生活できる環境は継続発展の基盤となる。子供の活力こそ、町全体を活気づけ地域全体の幸せにつながると考える。	男性	43
	老後に年金収入だけで暮していけるかという不安がないこと。また、1人暮らしや定年を迎えてから年金を受取れるようになるまでの期間が、更に不安なので不安を感じない年をとっていける生活環境が必要と考えます。	男性	53
	年寄りが安心して暮していける環境。	男性	69
	犯罪火災・事故のない地域、年老いて一人になっても安心して生活できる地域が幸せだと思います。金銭的な豊かさはあった方が良いですが、安心した毎日を送れる事が一番だと感じます。	女性	48
○安心・安全で生活保障の充実した住環境。	安心・安全で生活保障の充実した住環境。	男性	33
	地域住民が安心して暮らすことが出来るのが幸せにつながると思う。その為には、普段からの周りとのコミュニケーションが大事で、これをいかにして作り出せるかが、町の一つの「キー」になるのではないのでしょうか。	男性	41
	将来、(老後)何の不安もなく生きがいを持って友人、家族と健康(心身共)に暮らしていけたら幸せだと思う。	女性	55

分類(キーワード)	主なコメント	性別	年齢
○産業活性化 経済的豊かさ 安定した収入 雇用の創出と 若者の定住	特産品の開発とその事業への雇用の拡大があればいいと思います。	女性	55
	農産物の販路拡大、観光客の誘致拡大、地元の木材が売れるようになれば良い、人口が少しでも増えれば良い、工場の誘致、都会又は県との交流を一部姉妹都市で行われているがもっと増やす。	男性	68
	幸せな生活とはある程度収入がないと幸せとはいえないではないですか。米の収入はダメ。会社の月給もそこそこ。これでは農家にとって一番辛いことです。なんとかならないのかと毎日考えています…。	男性	46
	農家にとってもっと米の年収が上がり昔のような豊かな生活ができるように願っております。	女性	73
	安定した収入を得る為の働き口があれば良いと思う。	男性	40
	まず、経済的に豊かである事(個人も地域も)。なおかつ文化的である事(生活も考えも)。	男性	54
	会社や職場など働ける場所をつくる。	男性	76
	まだまだ働けると思っているパート等の仕事が美里町にはみつからない。宮川ぞいのさくらの木をもっとふやしてほしい旧永井野小を公園にしてほしい。	女性	64
	隣人と気軽に声かけあい安心して暮らせる住居で、就業する所もあり仕事や趣味が出来たら幸せな暮らしだと思います。会津の仕事をする場所も、若い人でさえなかなか無いとの話を耳にするので、これから若い人達が幸せに暮らしていける仕事場ができればいいと思います。	女性	51
	生活に不安なく暮らす事ができるように大規模な工場を誘致するなど地元の雇用に促進するような対策してほしい。地元就職先がないので若い人達は戻ってこない。	女性	38
○歴史・文化	伊佐須美神社に対する町民の意識が低い(伝統行事に対する協力)。門前町(みさと蔵)の利用向上を図る。	男性	70
	地域の歴史や伝統文化をもっとPRしてほしい。レジャー施設が少ない。	男性	63
	上の人は下を育み、下の人は上を敬う関係。行政に頼りすぎず、町民が町を育てている環境に住んでいて幸せだと思います。祭りや行事、伝統芸能や神社などに恵まれている環境を大切にしていこうと思います。	女性	30
○人とのつながり、 近所づきあいや 助け合い	村内での人とのつながりや何でも話す事の出来る環境。	男性	59
	昔からの住民が多いので世代間を通じての交流があること。	女性	78
	「幸せな地域」とは、となり近所との交流がはかられ、お互いに声をかけあえる関係がつけられ、子供たちに地域に伝わる伝統行事などについての話がひきつがれていくことかなと思います。	女性	53
	幸せな地域について個人的な考えは、お互いが救いあって困った時に手をさしのべられるような地域。	男性	20
	地域全体が協力して支え合って生活できれば、良いと思います。私もそれに向けて、積極的に動いていきたいと思っています。	女性	31
○若者や高齢者が 活躍できる環境	幸せな地域は、年をとっても孤独になる事なくまわりの人々と助けたり助けってもらったりしながら自分なりに前向きに生きて行ける地域だと思います。幸せな暮らしとは、自分の事は自分で出来て、時々近所や友達と話をしながら他人の生活も感じ、社会とつながりを持ちながら自由に生きて行ける事だと思います。美里町はきびしい予算の中から、細々ですが、社会福祉に努めてくれて、本郷地域ですが、特に大したものだと感じています。必ず来る老後ですが、なるべく迷惑をかけない様、前向きに努力して活していきたいと思っています。	女性	61
	現在において、高田地区において、伝統文化はかろうじて、続けているが以前のアピールが弱く、かき音がなくなって、若者が少なくなり、不安である。もっと町おこしに行政みずから、アンテナショップなど、もっと広めてほしい。住民が皆、あきらめている気がする。昔は、後継ぎがいたが、いまは、親みずから、継がなくていいと言う人が多く、もっと企業受け入れに力を入れるとか、町から若者をへらさない努力をしてほしい。	男性	44
	活気のある街。	男性	30
	「幸せな暮らし」とは、経済的に安定し、精神的な安定がはかれる家族がいて、自分の持っている能力や趣味を生かして、何らかの形で地域に貢献できることだと思います。	女性	53
	少子高齢化や地方の過疎化が進むなか、伝統や高齢者の方の経験・知恵を重んじ、若い世代がそれらに触れられる機会を増やすことが大切だと思います。地元の人どうしの適度なつながりが保たれ、安心して暮らせる地域が望ましいと考えます。	女性	25
	10年前には、まつりや、イベントで、多くの人々があつまり、豊かでしたが、最近では出店も、あまり無く、若い人があつまりません!!若い人無くては未来もない!	女性	23
	美里町内に働く場所が増えて、また年齢に見合った給料が貰えれば「幸せな地域・暮らし」に繋がってくると思います。美里町内の若者の中には、すごいアイデアや、やる気のある人がたくさんいます。ただ、環境や支援が足りていない気がします。元気な年配者もたくさんいます。その方々が活躍できる場や、環境を整えば、美里町はもっともっと良くなるのではないのでしょうか。	女性	32
○精神的豊かさ、 足を知る	「足る」を知る人、実感している人が「幸せな地域」「幸せな暮らし」をつかみ取る事ができるのではないだろうか。	男性	61
	何事につけてもストレスを感じない、感じさせない環境を作ることが幸せな暮らしにつながると思います。	女性	43
	精神的な豊さが幸せな暮らしにつながっていくと思う。	男性	58
	人それぞれの足りていると思える事を満足出来れば幸せだと思います。	女性	56
	幸せはお金だけで計れないので、本人の満足度が大きいと思います。お金もある程度必要ですが、最近思うのは、家族や有意義な時間(仕事やプライベート)の過ごし方が本人にとって幸せを感じるのではないのでしょうか?ちょっと田舎な会津美里町、いいんじゃないでしょうか?	男性	38
自分のおかれた状況・生活を楽しんで生活すること。	女性	60	

注) 緑色の網掛けは、現状への不満がうかがえるコメント。

(5) 参考～平均点の差からみた幸福感との関係について

最後に参考として、クロス集計や回帰分析とは別に、幸福感（問13）の回答者を幸福な層と幸福でない層の二つに分け、問2～12それぞれの平均点を算出し、その差から幸福感との関係のみてみた。

具体的には、先の回帰分析で点数化した問2～12の集計データについて、回答者ごとに各項目の点数を足し合わせた後、問全体の平均点を算出する（例えば、問2であれば7項目あるので、回答者の各項目の合計点数を7で割り返す）。

次に、問2～12それぞれについて、幸福感の四つの選択肢別に回答者数の合計点を算出した後、それを回答者数で割り返し、幸福感の選択肢別の平均点を算出する。

そして、算出された選択肢別の平均点を、幸福な層（「幸福である」＋「どちらかといえば幸福である」）と幸福でない層（「どちらかといえば幸福である」＋「幸福でない」）の二つにくくり、二つの層の平均点の差を導出した。（表2-10参照）

表2-10 問2～12における幸福な層と幸福でない層の平均点の差

【問2～12における回答者の合計点（幸福感の選択肢別）】

	回答者の得点合計			
	幸福である	どちらかといえば幸福である	どちらかといえば幸福でない	幸福でない
問2 会津美里町の自然環境・住環境について	269.1	635.0	87.7	33.0
問3 会津美里町の医療・福祉や健康増進にかかわる環境について	255.4	623.0	86.0	33.2
問4 会津美里町の安全・安心な暮らしについて	266.9	627.0	88.4	36.7
問5 会津美里町の経済産業や雇用環境について	210.6	521.0	71.0	28.6
問6 会津美里町ので教育環境や歴史・文化の保存・継承について	247.6	624.3	87.3	35.9
問7 お住まいの地域の集落の状況について	243.3	587.8	74.0	29.0
問8 会津美里町の行政運営について	222.5	543.3	69.5	26.8
問9 あなた自身の行動について	243.9	581.9	80.9	30.9
問10 あなたの食生活について	309.7	724.3	100.7	41.7
問11 あなたの日常的な生活意識について	286.7	659.3	85.3	30.7
問12 あなたの健康状態、食生活、暮らし方についての満足度	290.8	641.8	75.6	27.6

【問13（幸福感）の回答者数】

	幸福である	どちらかといえば幸福である	どちらかといえば幸福でない	幸福でない
回答者数	98	251	37	17

【幸福な層と幸福でない層の平均点とその差】

	回答者の平均点				平均点の差 (a+b)－ (c+d)
	幸福である	どちらかといえ ば幸福である	どちらかといえ ば幸福でない	幸福でない	
	(a)	(b)	(c)	(d)	
問2 会津美里町の自然環境・住環境について	2.75	2.53	2.37	1.94	0.96
問3 会津美里町の医療・福祉や健康増進にかかわる環境について	2.61	2.48	2.32	1.95	0.81
問4 会津美里町の安全・安心なくらしについて	2.72	2.50	2.39	2.16	0.67
問5 会津美里町の経済産業や雇用環境について	2.15	2.08	1.92	1.68	0.62
問6 会津美里町の教育環境や歴史・文化の保存・継承について	2.53	2.49	2.36	2.11	0.55
問7 お住まいの地域の集落の状況について	2.48	2.34	2.00	1.71	1.12
問8 会津美里町の行政運営について	2.27	2.16	1.88	1.57	0.98
問9 あなた自身の行動について	2.49	2.32	2.19	1.82	0.81
問10 あなたの食生活について	3.16	2.89	2.72	2.45	0.87
問11 あなたの日常的生活意識について	2.93	2.63	2.31	1.80	1.44
問12 あなたの健康状態、食生活、くらし方についての満足度	2.97	2.56	2.04	1.62	1.86

その結果、問2～12のいずれも平均点の差はプラスとなった。

その中で、平均点の差が1を上回った項目は幸福感への影響が強く、1を下回った項目は影響が弱いとみなした。

前者は、あなたの健康状態、食生活、くらし方についての満足度（問12）、あなたの日常的生活意識について（問11）及びお住まいの地域の集落の状況について（問7）の三つであり、後者は会津美里町の教育環境や歴史・文化の保存・継承について（問6）、会津美里町の経済産業や雇用環境について（問5）及び会津美里町の安全・安心なくらしについて（問4）の三つである。

## 第3章 指標体系案の提示

幸福度の指標化にかかる指標体系については、客観的指標主体、主観的指標主体及び両者を組み合わせたものの三つに類型化できることを第1章で述べた。

それで、本調査研究においては、アンケートの実施・分析と並行して、主観的指標及びそれを補完する客観的指標の選定を行い、両者を組み合わせた総合的な指標体系案を提示した。

### 1. 客観的指標の選定

はじめに、表2-1（会津美里町第2次総合計画における政策体系と幸福度体系案の対比）の各分野別に、市町村別に公表されている統計指標を関係省庁や福島県、業界団体等のホームページ及び資料等から抽出した。（表3-1参照）

次に、1年目の調査で触れた幸福度指標化の事例（内閣府、荒川区及び新潟市）に加え、その他の国内事例（富山県や京都府、熊本県、札幌市、堺市等）をインターネットや文献等により追加調査した。

そして、表3-1に示した統計指標と上記の先行事例で設定・検討されている指標項目とを比較し、共通または類似の指標について洗い出しをした。（表3-2参照）

その上で、網羅的に抽出した統計指標について、会津美里町の第2次総合計画で示されている施策との関連性（政策評価への反映の適否）、あるいは主観的指標との関連性を考慮の上、6分野40指標を客観的指標として選定した。（表3-3参照）

なお、町の施策との関連性は弱いものの、実態を把握しておくべきものについては、参考指標扱いとした。（表3-4参照）

一方、主観的指標については、既に第2章で述べたとおり、アンケートの質問項目の設計に至るプロセスとして、町の生活環境全般に関する42項目及び行動や意識、生活満足度や幸福感に関する26項目を選定済みである。

### 2. 指標体系案の提示

以上のプロセスで選定した客観的指標と先に選定した主観的指標を合わせた指標体系案は次のとおりである。（表3-5参照）

この指標体系に示した主観的指標と客観的指標は車の両輪であり、主観・客観の両面から幸福感を捉えていくことが必要である。そして、人々の主観的（包括的）な幸福感や満足度に影響を与えている客観的指標はどのようなものか、あるいは逆に主観的幸福感や満足度を説明する指標として客観的指標が適切かどうかを検証していくことが大切である。

表3-1 市町村別に公表されている主な統計指標（分野別）

分野	指標	一次資料(原典)	二次資料	分野	指標	一次資料(原典)	二次資料	
経済(産業、労働)	労働力率	総務省「国勢調査報告」	福島県HP	教育	幼稚園就園率	文部科学省「学校基本調査」	福島県HP	
	完全失業率	総務省「国勢調査報告」	福島県HP		保育所入所定員数	福島県「保健福祉部関連施設等名簿」	福島県HP	
	産業分類別就業者数・比率	総務省「国勢調査報告」	福島県HP		同待機児童数	厚生労働省「保育所入所待機児童数調査」	統計でみる市区町村のすがた	
	女性就業率	総務省「国勢調査報告」	福島県HP		不登校児童・生徒出現率	会津美里町教育委員会資料		
	高齢者の就業率	総務省「国勢調査報告」	福島県HP		高等学校等進学率	文部科学省「学校基本調査」	福島県HP	
	農家数、農家世帯比率	農林水産省「世界農林業センサス」	福島県HP		大学等進学率	文部科学省「学校基本調査」	福島県HP	
	耕地面積	東北農政局「福島農林水産統計年報」	福島県HP		森林面積	「福島県森林・林業統計書」	福島県HP	
	耕作放棄地率	東北農政局「福島農林水産統計年報」		持ち家の割合	総務省「国勢調査報告」	福島県HP		
	製造業事業所数・従業者数	経済産業省「工業統計調査」	福島県HP	1住宅当たり延べ面積	総務省「住宅・土地統計調査」			
	製造品出荷額等	経済産業省「工業統計調査」	福島県HP	都市公園面積	国土交通省「都市公園等整備現況調査」	統計でみる市区町村のすがた		
	商業事業所数・従業者数	経済産業省「商業統計調査」(経済センサス)	福島県HP	1人1日当たりごみ排出量	環境省「一般廃棄物処理実態調査」	福島県HP		
	年間商品販売額	経済産業省「商業統計調査」(経済センサス)	福島県HP	リサイクル率	環境省「一般廃棄物処理実態調査」	福島県HP		
	市町村内総生産	「福島県市町村民経済年報」	福島県HP	下水道処理人口普及率	(社)日本下水道協会「日本の下水道」	福島県HP		
	対前年増加率(経済成長率)	「福島県市町村民経済年報」	福島県HP	水洗化人口、水洗化率	環境省「一般廃棄物処理実態調査」	統計でみる市区町村のすがた		
	1人当たり市町村民所得	「福島県市町村民経済年報」	福島県HP	市町村道路舗装率	福島県県道路管理課(業務資料)	福島県HP		
人口当たり課税対象所得額	市町村税課税状況等の調査	統計でみる市区町村のすがた	市町村道改良率	会津美里町資料	福島県市町村要覧			
健康(医療、福祉)	出生数、出生率(人口千人当たり)	「人口動態統計(確定数)の概況(福島県)」	福島県HP	安全・安心(インフラ)	交通事故発生件数(人口1万人当たり)	警察庁交通局「交通統計」	福島県HP	
	死亡数、死亡率(人口千人当たり)	「人口動態統計(確定数)の概況(福島県)」	福島県HP		交通事故死傷者数(人口1万人当たり)	県生活交通課「交通白書」	福島県HP	
	乳児死亡率	「人口動態統計(確定数)の概況(福島県)」	福島県HP		刑法犯認知件数	警察庁刑事局「犯罪統計書」	福島県HP	
	平均寿命	厚生労働省「平成17年市区町村別生命表の概況」	福島県HP		火災出火件数(人口1万人当たり)	「福島県消防防災年報」	福島県HP	
	自殺者数、自殺率	「人口動態統計(確定数)の概況(福島県)」	福島県HP		自主防災組織率	「福島県消防防災年報」	福島県HP	
	老人福祉費(人口1人当たり)	「福島県市町村財政年報」	福島県HP	消防団員充足率	「福島県消防防災年報」	福島県HP		
	要介護者認定率	福島県高齢福祉課介護保険室(業務資料)	福島県HP	コミュニティ・関係性	単身世帯比率	総務省「国勢調査報告」	福島県HP	
	1人当たり後期高齢者医療費	福島県後期高齢者医療広域連合(業務資料)	福島県HP		高齢化率	総務省「国勢調査報告」	福島県HP	
	1人当たり国民健康保険医療費	福島県「国民健康保険事業状況」	福島県HP		老年化指数(65歳以上人口÷年少人口×100)	総務省「国勢調査報告」	福島県HP	
	悪性新生物死亡者数(人口1万人当たり)	「人口動態統計(確定数)の概況(福島県)」	福島県HP		老年人口指数(65歳以上人口÷生産年齢人口×100)	総務省「国勢調査報告」	福島県HP	
	脳血管疾患死亡者数(人口1万人当たり)	「人口動態統計(確定数)の概況(福島県)」	福島県HP		1人暮らしの高齢者世帯比率	総務省「国勢調査報告」	福島県HP	
	医療施設数(人口1万人当たり)	福島県「保健統計の概況」	福島県HP		3世代世帯割合	総務省「国勢調査報告」	福島県HP	
	医療従事者数(人口1万人当たり)	厚生労働省「医師・歯科医師・薬剤師調査」	福島県HP		限界集落数	会津美里町資料		
	就業届出看護職員数	福島県看護職員就業届出状況	福島県HP		ガバナンス	国政・地方選挙投票率	選挙管理委員会公表資料	
	特定健康診査受診率(国保)	会津美里町資料	福島県国民健康保険団体連合会HP			文化	国・県・町指定文化財件数	会津美里町生涯学習課
	主要疾患検診受診率(国保)	会津美里町資料			その他の検討指標	世帯あたり自家用乗用車普及台数	国土交通省福島運輸支局、(一財)自動車検査登録情報協会	
	介護老人福祉施設数	厚生労働省「介護サービス施設・事業所調査」	統計でみる市区町村のすがた	飲食店数		総務省「経済センサス基礎調査」	統計でみる市区町村のすがた	
	身体障害者更生支援施設数	厚生労働省「社会福祉施設等調査報告」	統計でみる市区町村のすがた	人口自然増加率、社会増加率		会津美里町資料		
				婚姻率・離婚率(人口千人当たり)		「人口動態統計(確定数)の概況(福島県)」		
				薬局数		福島県総合医療情報システム		



表3-2 国内他事例の指標項目との比較

分野	指標	富山県	福井県	京都府	兵庫県	土佐経済 同友会	熊本県	札幌市	新潟市	荒川区	堺市	ふさと 希望指数	青森政策 マーゲティング	法政大学 坂本研究室	備考 (他事例の類似指標)	
経済(産業、 労働)	労働力率										△				女性労働力率	
	完全失業率	○			○				○		○			○		
	産業分類別就業者数・比率				○											
	女性就業率	△			○				△			△				女性有業率、全就業率
	高齢者の就業率	△			△						○		△			高齢者雇用数、有業率
	農家数、農業世帯比率															
	耕地面積															
	耕作放棄地率															
	製造業事業所数・従業員数															
	製造業事業所数・従業員数															
	商業事業所数・従業員数															
	年間商品販売額															
	市町村内総生産															
	対前年増加率(経済成長率)															
	1人当たり市町村民所得															
人口当たり隠微対象所得額																
出生数、出生率(人口千人当り)	△				△					△	△			○	出荷伸び率、一人当たり出荷額等	
死亡数、死亡率(人口千人当り)																
乳児死亡率																
平均寿命																
自殺者数、自殺率																
老人福祉費(人口1人当り)																
要介護者認定率																
1人当たり後期高齢者医療費																
1人当たり国民健康保険医療費	△				△									△	出現率 一人当たり老人医療費 1人当たり医療費(全体) 1人当たり医療費(国保・高齢者除く)	
健康(医療、 福祉)	悪性新生物死亡者数 (人口1万人当り)															
	脳血管疾患死亡者数 (人口1万人当り)															
	医療施設数(人口1万人当り)															
	医療従事者数(人口1万人当り)	△			△									△	一般診療所数 医師数	
	就業届出看護職員数	○			○											
	特定健康診査受診率(国保)															
	主要疾患診査受診率(国保)				○											健康診断受診率
	介護老人福祉施設数															
	身体障害者更生保護施設数															
	幼稚園就園率															
教育	保育所入所定員数															
	回待機児童数	○			○									△	定員比率	
	不登校児童・生徒出現率															
	高等学校等進学率															
	大学等進学率															

分野	指標	富山県	福井県	京都府	兵庫県	土佐経済 同友会	熊本県	札幌市	新潟市	荒川区	堺市	ふるさと 希望指数	青森政策 マーケティング	法政大学 坂本研究室	備考 (他事例の類似指標)	
環境(居住、 インフラ)	森林面積	△													森林整備延べ面積	
	持ち家の割合	○			○		○							○		
	1住宅当たり延べ面積						○									
	都市公園面積	△														
	1人1日当たりごみ排出量	○					○							○		
	リサイクル率	○			○											
	下水道処理人口普及率	○					○									
	水洗化人口・水洗化率						△								水洗化率	
	市町村道舗装率															都市計画道路整備率
	市町村道改良率															
安全・安心 (インフラ)	交通事故発生件数 (人口1万人当たり)	○									○	○	△	○	冬の事故発生率	
	交通事故死者数 (人口1万人当たり)								△						死亡者数	
	刑法犯認知件数	○	○				○	○	○		○	○	△	○	犯罪発生率	
	火災出火件数(人口1万人当た り)	△			○		○	○	○					○		
	自主防災組織数・組織率	○	○		○		○	○							組織の活動カバー率	
	消防団員充足率	○					○									
	消防団員不足率															
	単身世帯比率															
	高齢化率															
	老年化指数(65歳以上人口÷ 年少人口×100)															
コミュニケーション 関係性	老年人口指数(65歳以上人口 ÷生産年齢人口×100)															
	1人暮らしの高齢者世帯比率								○							
	3世代世帯割合	○														
	限界集落数															
	国政・地方選挙投票率															
	国・県・市町村指定文化財件数						○								国指定文化財	
	世帯あたり自家用乗用車普及台 数						△								1世帯当たり保有台数	
	飲食店数															
	人口自然増加率・社会増加率															
	結婚率・離婚率(人口千人当た り)	△														未婚率

注)○:他事例と共通する指標 △:他事例と類似する指標

表3-3 客観的指標案

分野	指標	一次資料(原典)	二次資料	第1分類	第2分類	備考 (他県・市等の事例の類似指標)	アンケート質問項目との関連
経済 (産業、労働)	完全失業率	総務省「国勢調査報告」	福島県HP	○			問5⑤
	女性就業率	総務省「国勢調査報告」	福島県HP	○		女性有業率、全就業率	〃
	高齢者の就業率	総務省「国勢調査報告」		○		高齢者雇用数、有業率	〃
	耕作放棄地率	農林水産省 「世界農林業センサス」		○			〃
	製造品出荷額等	経済産業省「工業統計調査」	福島県HP	○		出荷額伸び率、 一人当たり出荷額等	問5③
	年間商品販売額	経済産業省「商業統計調査」 (経済センサス)	福島県HP	○		小売業販売額伸び率	問2⑥
	市町村内総生産	「福島県市町村経済年報」	福島県HP	○		1人当たり県内GDP	問5①・②
	1人当たり市町村民所得	「福島県市町村経済年報」	福島県HP	○		1人当たり県民所得	問12⑤
	人口当たり課税対象所得額	「市町村税課税状況等の調	統計でみる市区町村のすがた	○			〃
	健康 (医療、福祉)	出生数、出生率 (人口千人当たり)	「人口動態統計(確定数)の概況(福島県)」	福島県HP	○		合計特殊出生率
死亡数、死亡率 (人口千人当たり)		「人口動態統計(確定数)の概況(福島県)」	福島県HP	○			問3①・④・⑤
乳児死亡率		「人口動態統計(確定数)の概況(福島県)」	福島県HP	○		乳児死亡者数	問3①・④、 問4⑤・⑥
平均寿命		厚生労働省「平成17年市区町村別生命表の概況」	福島県HP	○			問3①・④・⑤
自殺者数、自殺率		「人口動態統計(確定数)の概況(福島県)」	福島県HP	○			問7、9、11、 12、13
老人福祉費 (人口1人当たり)		「福島県市町村財政年報」	福島県HP		○		問3①・②・④、 ⑤
要介護者認定率		福島県高齢福祉課 介護保険室(業務資料)	福島県HP	○		出現率	問3①・②・③・ ④・⑤
1人当たり 後期高齢者医療費		福島県後期高齢者 医療広域連合(業務資料)	福島県HP	○		一人当たり老人医療費	問3①・②・④・ ⑤
1人当たり 国民健康保険医療費		福島県「国民健康保険 事業状況」	福島県HP	○		1人当たり医療費(全体)、 1人当たり医療費 (国保・高齢者除く)	問3①・④・⑤
悪性新生物死亡者数 (人口1万人当たり)		「人口動態統計(確定数)の概況(福島県)」	福島県HP		○		問3①・④・⑤
脳血管疾患死亡者数 (人口1万人当たり)		「人口動態統計(確定数)の概況(福島県)」	福島県HP		○		〃
医療施設数 (人口1万人当たり)		福島県「保健統計の概況」	福島県HP	○		一般診療所数	問3①
特定健康診査受診率 (国保)		会津美里町資料	福島県国民健康保 険団体連合会HP	○		健康診断受診率	問3④
主要疾患検診受診率 (国保)		会津美里町資料		○			〃
教育		保育所待機児童数	厚生労働省「保育所入所 待機児童数調査」	統計でみる市区町村のすがた	○		
	不登校児童・生徒出現率	会津美里町教育委員会資料		○		児童生徒数	問6②
環境 (居住、インフラ)	都市公園面積	国土交通省 「都市公園等整備現況調査」	福島県 市町村要覧	○		都市公園数	問2①、問4⑦
	1人1日当たりごみ排出量	環境省 「一般廃棄物処理実態調査」	福島県HP	○			問2③
	リサイクル率	環境省 「一般廃棄物処理実態調査」	福島県HP	○			〃
	下水道処理人口普及率	(社)日本下水道協会 「日本の下水道」	福島県HP	○			問2⑤
	水洗化人口、水洗化率	環境省 「一般廃棄物処理実態調査」	統計でみる市区町村のすがた	○		水洗化率	〃
	市町村道舗装率	福島県道路管理課(業務資料)	福島県HP	○		都市計画道路整備率	問2⑤・⑦
市町村道改良率	会津美里町資料	福島県 市町村要覧		○		〃	
安全・安心 (インフラ)	交通事故発生件数 (人口1万人当たり)	警察庁交通局「交通統計」	福島県HP	○		冬の事故発生率	問4①
	交通事故死傷者数 (人口1万人当たり)	県生活交通課「交通白書」	福島県HP	○		死亡者数	〃
	刑法犯認知件数	警察庁刑事局「犯罪統計書」	福島県HP	○		犯罪発生率	問4②、問9④
	火災出火件数 (人口1万人当たり)	「福島県消防防災年報」	福島県HP	○			問4③・④、 問9④
	自主防災組織率	「福島県消防防災年報」	福島県HP	○		組織の活動カバー率	問4③
	消防団員充足率	「福島県消防防災年報」	福島県HP	○		消防団員数	問4④
コミュニティ・ 関係性	1人暮らしの 高齢者世帯比率	国勢調査報告	福島県HP	○		〃	
	限界集落数	会津美里町資料		○		〃	

注)他県・市等の事例と共通しない類似する指標は優先度が高いものとして第1分類、その他は第2分類とした。

表 3 - 4 参考指標案

分野	指標	一次資料(原典)	二次資料	備考 (他県・市等の 事例の類似指標)
経済(産業、 労働)	農家数、農家世帯比率	農林水産省 「世界農林業センサス」	福島県HP	
	耕地面積	東北農政局 「福島農林水産統計年報」	福島県HP	
	製造業事業所数・従業者数	経済産業省「工業統計調査」	福島県HP	
	商業事業所数・従業者数	経済産業省「商業統計調査」 (経済センサス)	福島県HP	
健康(医療、 福祉)	介護老人福祉施設定員数 (人口1万人あたり)	厚生労働省「介護サービス 施設・事業所調査」	統計でみる市区 町村のすがた	
	身体障害者更生援護施設 定員数(人口1万人あたり)	厚生労働省 「社会福祉施設等調査報告」	統計でみる市区 町村のすがた	
コミュニティ・ 関係性	高齢化率	総務省「国勢調査報告」	福島県HP	
	老年化指数(65歳以上 人口÷年少人口×100)	総務省「国勢調査報告」	福島県HP	
	老年人口指数(65歳以上 人口÷生産年齢人口×100)	総務省「国勢調査報告」	福島県HP	
	3世代世帯割合	総務省「国勢調査報告」	福島県HP	
文化	国・県・町指定文化財件数	会津美里町生涯学習課	会津美里町HP	国指定文化財
その他	婚姻率・離婚率 (人口千人当たり)	「人口動態統計(確定数)の 概況(福島県)」	福島県HP	未婚率

表 3 - 5 指標体系案

会津美里町第2次総合計画の体系		東北活性研 幸福度体系案	主観的指標		客観的指標		
			町の生活環境全般に関する項目	行動や意識、生活満足度や幸福感に関する項目	指標	第1 分類	第2 分類
環境共生の まちづくり	自然環境の保全	環境	<b>【満足度】</b> ○身近な緑とのふれあいなど自然と調和した暮らし ○豊かな自然環境の保全 ○ごみの減量やリサイクルの取り組み ○再生可能エネルギー(太陽光、風力等)の利用 ○上下水道、道路、情報通信などの生活基盤 ○日常的な買い物の便利さ ○日常的な移動手段の確保	<b>【行動】</b> ○身の回りの環境問題を意識した生活行動 ○身の回りの環境保全のための活動	都市公園面積	○	
	生活環境の保全				1人1日当たりごみ排出量	○	
	都市基盤の整備				リサイクル率	○	
	交通体系の充実				下水道処理人口普及率	○	
	循環型社会の形成				水洗化人口、水洗化率	○	
					市町村道舗装率	○	
		市町村道改良率		○			
安心安全な 暮らしづくり	保健体制の充実と医療の確保	健康、 安全・安心	<b>【満足度】</b> ○病気やけがなどの際に利用できる医療サービス ○高齢者が利用できる介護・福祉サービス ○障がい者が利用できる介護・福祉サービス ○健康相談や指導、検診などの病気予防対策 ○温泉入浴施設など健康増進施設の整備 ○交通安全にかかわる対策 ○治安・防犯にかかわる対策 ○町の防災・避難対策及び災害時の体制 ○消防団の活動 ○保育・子育て施設の整備 ○地域全体で子育てを支える環境 ○お年寄りが気軽に楽しめる場	<b>【行動】</b> ○規則正しい食事や運動など、自身の健康づくり ○防犯・防災活動 ○安全な食材の購入とそれを使った食事 ○季節の旬の食材の購入とそれを使った食事 ○地域の伝統的な食材の購入とそれを使った食事 <b>【満足度】</b> ○自分の健康状態 ○日常の食生活の内容	出生数、出生率(人口千人 当たり)	○	
	高齢者福祉の充実				死亡数、死亡率(人口千人 当たり)	○	
	障がい者福祉の充実				乳児死亡率	○	
	家庭子育て力の向上				平均寿命	○	
	互いに支えあう社会福祉の推進				自殺者数、自殺率	○	
	防災・消防体制の充実				老人福祉費(人口1人当たり)		○
	交通安全・防犯体制の充実				要介護者認定率	○	
	誰もが尊重される社会の実現				1人当たり後期高齢者医療費	○	
					1人当たり国民健康保険 医療費	○	
					悪性新生物死者数 (人口1万人当たり)		○
					脳血管疾患死者数 (人口1万人当たり)		○
					医療施設数(人口1万人 当たり)	○	
					特定健康診査受診率(国保)	○	
					主要疾患検診受診率(国保)	○	
	交通事故発生件数(人口1万 人当たり)	○					
	交通事故死傷者数(人口1万 人当たり)	○					
	刑法犯認知件数	○					
	火災出火件数(人口1万人 当たり)	○					
	自主防災組織率	○					
	消防団員充足率	○					

会津美里町第2次総合計画の体系		東北活性研 幸福度体系案	主観的指標		客観的指標		
			町の生活環境全般に関する項目	行動や意識、生活満足度や幸福感に関する項目	指 標	第1 分類	第2 分類
活力ある 産業づくり	農業の振興	経済	【満足度】 ○農林業の状況 ○農畜産物等の地産地消の取り組み ○会津本郷焼など地場産業の状況 ○観光地・施設の振興と誘客 ○多様な雇用の場・機会の確保	【満足度】 ○仕事と生活の調和がとれた働き方 ○仕事や生活の充実度 ○あなたの世帯の収入	完全失業率	○	
	林業の振興				女性就業率	○	
	商工業・地場産業の振興				高齢者の就業率	○	
	観光の振興				耕作放棄地率	○	
	雇用の促進				製造品出荷額等	○	
					年間商品販売額	○	
こころ豊かな 人づくり	子ども教育の充実	教育、文化	【満足度】 ○家庭・地域の教育環境 ○学校の教育環境 ○スポーツ活動を楽しむ環境 ○生涯学習や趣味、文化活動を楽しむ環境 ○神社仏閣やまつり・芸能など文化遺産の保存・継承 ○農山村の風景や町並み景観の保存・継承 ○伝統的な食材や郷土料理など食文化の保存・継承 ○暮らしに根づいた昔からの風習や知恵の保存・継承	【行動】 ○学習活動 ○日常の趣味やスポーツ、文化活動への取り組み ○地域のまつりや伝統行事への参画	保育所待機児童数	○	
	生涯学習の推進				不登校児童・生徒出現率	○	
	生涯スポーツの推進						
	文化財の保護・活用と地域文化の継承						
町民主体の 地域づくり	コミュニティ活動の推進	コミュニティ・ 関係性	【満足度】 ○自治会行事などの活動 ○子どもとお年寄りなどの世代間交流 ○困ったときに地域で支え合うお互い様の関係 ○困ったときに頼りになる友人や仲間との関係 ○自分が持っている知識や技量が発揮できる環境 ○外部人材や資源の受け入れ、交流	【意識】 ○集落の一員としての連帯感 ○日々の生活の中での孤独感 ○日々の生活の中での不安や悩み	1人暮らしの高齢者世帯比率	○	
	交流の推進				限界集落数	○	
効率的で 効果的な 行財政運営	健全な財政運営の推進	ガバナンス	【満足度】 ○各種施策・事業への町民ニーズの反映 ○行政の透明性と必要な情報の入手しやすさ ○住民と行政との意思疎通 ○住民参加や協働のまちづくりの推進				
	町民に信頼される行政の推進						
	町民参加の推進						
その他(幸福感、町への思い)				○あなたはいま幸せか(幸福感) ○幸福感を判断する際に重視する基準 ○幸福感を判断する際に重視する事 ○会津美里町の特産品についてどれくらい挙げられるか(認知度) ○会津美里町の歴史・文化資源についてどれくらいあげられるか(認知度) ○会津美里町について誇りに思うこと ○これからの会津美里町に住み続けたいか(定住志向)			

## 第4章 政策評価ツールとして活用する場合の課題

最後に、本章ではアンケートの結果を振り返り、会津美里町をモデルケースとした幸福度の指標化にかかる、政策評価のツールとして活用する場合の今後の課題について、主観的指標と客観的指標の両面から整理する。

### 1. 主観的指標について

会津美里町をモデルケースとしたアンケートから、個々の項目（生活環境全般等）によって、町民の幸福感と満足度との間に有意な関係が認められた。そして、これらの項目については政策評価へ反映できる可能性があることを示すことができた。

ただし、政策評価としての精度をより高めていくための検討課題として、次の二つの点が考えられる。

#### (1) 継続的な実施

アンケートの実施は、分析結果にもとづく主観的指標の見直しを考えていく上でも、1回限りとせず継続的に実施し、町民の幸福感や意識の変化などを経年で見ていくことが重要である。

#### (2) 一定数を同一とした標本設計

標本設計の際は一定数を同一にするなどし、5年後、10年後など加齢・ライフステージによる変化が捉えられるような工夫が必要である。

※ちなみに、会津美里町では今回のアンケート結果を踏まえ、いくつかの質問項目を毎年実施している町民意識調査に織り込み、検証していくことにしている。

### 2. 客観的指標について

今回選定した客観的指標は一つのたたき台といえ、今後は、選定の適否の検証を含め、下記の点でブラッシュアップが必要である。

#### (1) 恒常的な見直し

会津美里町をはじめ、市町村における客観的指標の政策評価への適用を考えると、市町村別に公表されている統計に限定される。加えて、町の施策との関連性を踏まえて絞り込みをした結果、分野により指標数に偏りがある。すなわち、健康や安全・安心に関わる指標は充実しているが、教育・文化やコミュニティに関わる指標が少なく、ガバナンスに関わる指標は適切なものを選定できなかった。

このことから、今後は、アンケートの継続的な実施により幸福感との関係の強弱など傾向を捉えた上で、主観的指標に合致した指標の追加や入れ替え作業を行い、分野ごとの偏りを極力減らしていく必要がある。

## (2) データの推移や平均値で評価

直近のデータのみならず過去数年間のデータを拾い、その推移（増減、横ばい）や平均値をみていくことも重要である。

## (3) 割合（比率）に加工

全国や県、あるいは条件が似通っている市町村などとの相対比較を考慮し、客観的指標は原則として、人口当たりなどの割合（比率）に加工したデータで見るのが適切である。

なお、割合（比率）の算出に用いる指標については、人口や世帯、面積などが考えられるが、各指標への適用の精査は今後の検討課題である。

## (4) 持続可能性の視点

持続可能な社会の構築が求められており、幸福度指標に持続可能性の視点を組み入れようとする動きがみられる。<sup>\*</sup>

したがって、今後の指標の見直しにあたっては、持続可能性指標を追加していくことも考慮する。

<sup>\*</sup>国連大学地球環境変化の人間・社会的側面に関する国際研究計画（UNU-IHDP）では、平成 24 年 6 月に、国連環境計画（UNEP）など複数のパートナーと共同で「Inclusive Wealth Report 2012 (IWR : 包括的富に関する報告書)」を発表している。

本報告書では、従来の国民総生産（GDP）や人間開発指数（HDI）などのように短期的な経済発展を基準とせず、持続可能性に焦点を当て、長期的な人工資本（機械、インフラ等）、人的資本（教育やスキル）、自然資本（土地、森、石油、鉱物等）を含めた資産を基準に評価し、数値化した Inclusive Wealth Index (IWI : 包括的富指標) を採用している。（国連大学サステナビリティと平和研究所 HP より）



## 補足～東北における幸福な暮らしの姿とは

ここでは補足として、会津美里町民が考える幸福感を起点にしながら、東北としての幸福感、すなわち東北における幸福な暮らしの姿とはどのようなものかを考えてみたい。

第2章で述べたアンケート結果の分析から、会津美里町民が日頃感じている幸福感は、町の生活環境全般ならびに自身の行動や意識、生活満足度に対して満足か不満かにかかわらず、総体的に高いことが確認できた。このことは、内閣府の「国民生活選好度調査」の結果と比較しても明らかであった。

その一方で、問2～12までの質問項目（計60）のうち、不満や消極的などの割合が4割以上の項目は半数を超えており、幸福感が高い水準にある反面、町民は少なからず不満を感じつつ暮らしていることも垣間見ることができた。

このように、町民が不満を抱えながらも総合的な判断として導き出した幸福感とは、具体的にどのようなものか。自由回答に寄せられた具体的なコメントも参考にしながら整理すると、以下に示すような姿が浮き彫りになってくる。

- 次世代を担う若年層をはじめとして、生活基盤などの都市機能や雇用環境、あるいは所得の面で充足しているとはいえない。
- ただし、これら足りない面を補うほどの身近な自然環境や健康的で豊かな食生活、あるいは人とのつながりを実感できる暮らしがそこにはある。
- 別の言い方をすれば、高い収入は望めないかもしれないが、都会の喧噪とは異なる環境の中で、身近な幸福が感じられる暮らしができるということである。

この会津美里町の姿を東北に重ね合わせて簡潔に示すならば、以下のように表現することができるのではないか。

### **豊かな自然と食と人が織りなす環境の中で、健やかな暮らしを享受できる東北**

しかしながら、会津美里町という中山間地域に位置する一つの町の姿を捉えたにすぎず、都市居住者の幸福感との比較も行っていないため、東北全体を投影して一様に当てはめることは短絡的かもしれない。また、従前から言われてきたことでもあり、新たな将来像を示すという点では新鮮味に欠けるかもしれない。とはいえ、総面積のおよそ7割を中山間地域が占める東北において、そのめざすべき方向性の一端を示すとともに、東北が持つ良さをあらためて確認できたともいえよう。